

【表紙】

| | |
|------------|---------------------------------|
| 【提出書類】 | 有価証券報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 平成26年6月26日 |
| 【事業年度】 | 第143期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日） |
| 【会社名】 | 関東鉄道株式会社 |
| 【英訳名】 | Kanto Railway Co.,Ltd |
| 【代表者の役職氏名】 | 取締役社長 米川 公誠 |
| 【本店の所在の場所】 | 茨城県土浦市真鍋一丁目10番8号 |
| 【電話番号】 | (029)822-3710 |
| 【事務連絡者氏名】 | 経理部次長 岡 友幸 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 茨城県土浦市真鍋一丁目10番8号 |
| 【電話番号】 | (029)822-3710 |
| 【事務連絡者氏名】 | 経理部次長 岡 友幸 |
| 【縦覧に供する場所】 | 該当事項はありません |

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

| 回次 | 第139期 | 第140期 | 第141期 | 第142期 | 第143期 |
|---------------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 決算年月 | 平成22年 3月 | 平成23年 3月 | 平成24年 3月 | 平成25年 3月 | 平成26年 3月 |
| 営業収益 (千円) | 15,680,567 | 15,589,165 | 15,255,768 | 15,626,462 | 15,702,052 |
| 経常利益 (千円) | 333,275 | 92,252 | 62,615 | 409,285 | 349,846 |
| 当期純利益 (千円) | 156,166 | 375,584 | 89,540 | 359,554 | 451,288 |
| 包括利益 (千円) | | 232,396 | 367,535 | 878,573 | 307,164 |
| 純資産額 (千円) | 3,465,565 | 3,646,136 | 3,984,528 | 4,811,725 | 4,789,597 |
| 総資産額 (千円) | 25,143,311 | 24,654,706 | 24,505,211 | 25,692,458 | 26,632,061 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 339.26 | 357.31 | 388.79 | 470.32 | 471.17 |
| 1株当たり当期純利益金額 (円) | 15.35 | 36.92 | 8.80 | 35.36 | 44.39 |
| 潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円) | | | | | |
| 自己資本比率 (%) | 13.7 | 14.7 | 16.1 | 18.6 | 17.9 |
| 自己資本利益率 (%) | 4.7 | 10.6 | 2.4 | 8.2 | 9.4 |
| 株価収益率 (倍) | | | | | |
| 営業活動による キャッシュ・フロー (千円) | 1,198,205 | 972,533 | 1,755,467 | 1,616,575 | 1,974,442 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー (千円) | 435,504 | 164,161 | 676,358 | 578,534 | 757,644 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー (千円) | 788,399 | 1,140,427 | 867,739 | 915,280 | 694,682 |
| 現金及び現金同等物の 期末残高 (千円) | 1,010,990 | 678,935 | 910,304 | 1,033,063 | 1,555,179 |
| 従業員数 (外、平均臨時雇用者 数) (人) | 1,428 (602) | 1,398 (682) | 1,388 (604) | 1,332 (596) | 1,288 (603) |

- (注) 1. 営業収益には、消費税等は含まれていません。
 2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
 3. 株価収益率は非上場のため記載していません。

(2) 提出会社の経営指標等

| 回次 | 第139期 | 第140期 | 第141期 | 第142期 | 第143期 |
|---------------------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 決算年月 | 平成22年3月 | 平成23年3月 | 平成24年3月 | 平成25年3月 | 平成26年3月 |
| 営業収益 (千円) | 9,899,758 | 9,742,812 | 9,453,581 | 9,710,712 | 9,774,188 |
| 経常利益 (千円) | 308,758 | 59,506 | 108,029 | 327,937 | 301,002 |
| 当期純利益又は 当期純損失 () (千円) | 98,807 | 47,050 | 2,735 | 151,930 | 168,909 |
| 資本金 (千円) | 510,000 | 510,000 | 510,000 | 510,000 | 510,000 |
| 発行済株式総数 (千株) | 10,200 | 10,200 | 10,200 | 10,200 | 10,200 |
| 純資産額 (千円) | 3,646,618 | 3,429,590 | 3,604,788 | 4,147,122 | 4,140,779 |
| 総資産額 (千円) | 22,123,596 | 21,488,587 | 21,318,502 | 22,095,457 | 22,715,244 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 358.48 | 337.18 | 354.43 | 407.86 | 407.34 |
| 1株当たり配当額 (1株当たり中間配当 額) (円) | 5.00 () | 5.00 () | 5.00 () | 5.00 () | 5.00 () |
| 1株当たり 当期純利益金額又は 当期純損失金額 () (円) | 9.71 | 4.63 | 0.27 | 14.94 | 16.61 |
| 潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円) | | | | | |
| 自己資本比率 (%) | 16.5 | 16.0 | 16.9 | 18.8 | 18.2 |
| 自己資本利益率 (%) | 2.8 | 1.3 | 0.1 | 3.9 | 4.1 |
| 株価収益率 (倍) | | | | | |
| 配当性向 (%) | 51.48 | | | 33.47 | 30.10 |
| 従業員数 (外、平均臨時雇用者 数) (人) | 753 (298) | 788 (292) | 791 (258) | 770 (230) | 750 (242) |

(注) 1. 営業収益には、消費税等は含まれていません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、第140期及び第141期については、1株当たり当期純損失のため記載していません。

3. 株価収益率は非上場のため記載していません。

2 【沿革】

(1) 提出会社の沿革

| 年月 | 概要 |
|----------|--------------------------------------|
| 大正11年 9月 | 鹿島参宮鉄道株式会社設立（資本金100万円） |
| 13年 6月 | 石岡駅～常陸小川駅間営業開始 |
| 15年 8月 | 常陸小川駅～浜駅間営業開始 |
| 昭和 3年 2月 | 浜駅～玉造町駅間営業開始 |
| 4年 5月 | 玉造町駅～鉾田駅間営業開始 |
| 6年 7月 | 自動車運送事業営業開始 |
| 40年 6月 | 常総筑波鉄道株式会社を吸収合併し、商号を関東鉄道株式会社とする。 |
| 43年 8月 | 乗合バスワンマン運行開始 |
| 45年 9月 | 関鉄霞ヶ浦阿見団地造成・宅地分譲開始 |
| 46年 8月 | 竜ヶ崎線ワンマン運行開始 |
| 54年 4月 | 筑波線を筑波鉄道株式会社へ譲渡 |
| 〃 | 鉾田線を鹿島鉄道株式会社へ譲渡 |
| 57年 3月 | 乗合バスワンマン運行100%達成 |
| 59年11月 | 常総線取手駅～水海道駅間複線化全線開通 |
| 62年 4月 | 高速バス路線を運行開始（つくばセンター～東京駅） |
| 63年 4月 | 水戸駅～東京駅間高速バス運行開始 |
| 平成元年 4月 | 鹿島神宮駅～東京駅間高速バス運行開始 |
| 6年 7月 | 土浦・つくば～成田空港間直行バス運行開始 |
| 9年 5月 | 常総線水海道駅～下館駅間ワンマン運行開始 |
| 11年 2月 | 水海道駅～東京駅間高速バス運行開始 |
| 11年 6月 | つくばセンター～羽田空港間直行バス運行開始 |
| 13年 4月 | 水戸駅・つくばセンター～京都・大阪間夜行高速バス運行開始 |
| 16年 3月 | 常総線取手駅～水海道駅間の一部列車のワンマン運行開始 |
| 17年 3月 | 常総線守谷駅橋上化営業開始 |
| 17年 8月 | 常総線快速列車運行開始 |
| 17年 8月 | 筑波大学キャンパス交通システム（筑波大学循環線）運行開始 |
| 17年10月 | 筑波山シャトルバス運行開始 |
| 18年 4月 | つくば市コミュニティバス受託運行開始 |
| 19年 4月 | 鉄道旅客運賃改定の実施 |
| 21年 3月 | 常総線と竜ヶ崎線でICカード乗車券システム「PASMO」導入 |
| 23年 3月 | 常総線に「ゆめみ野駅」を開業 |
| 25年 3月 | 高速バス鹿島神宮駅～東京駅線でICカード乗車券システム「PASMO」導入 |
| 25年11月 | 常総線開業100周年 |

(2) 関係会社の沿革

| 年月 | 概要 |
|---------|--|
| 昭和40年7月 | 常鉄観光(株)が参宮観光(株)と合併し、関鉄観光(株)となる |
| 40年10月 | 関鉄常総タクシー(株)設立 |
| 41年6月 | 緑屋タクシーより経営を譲受、関鉄水戸タクシー(有)となる |
| 46年10月 | 関東情報サービス(株)設立 |
| 46年11月 | 関鉄取手タクシー(株)、関鉄県南タクシー(株)設立 |
| 50年4月 | 関鉄自動車工業(株)設立 |
| 54年4月 | 筑波鉄道(株)設立(関東鉄道より譲受 筑波線土浦～岩瀬間 40.1km) 鹿島鉄道(株)設立(関東鉄道より譲受 銚田線石岡～銚田間 27.2km) |
| 62年4月 | 筑波鉄道(株)鉄道事業(土浦～岩瀬間40.1km)を廃止 |
| 62年5月 | 関鉄土浦タクシー(株)が京成観光タクシー(株)と合併 |
| 62年6月 | 筑波鉄道(株)が関鉄筑波商事(株)に商号変更 |
| 平成元年6月 | 鹿島鉄道(株)石岡～玉里間にレールバス運行開始 石岡～東田中間に新駅「石岡南台」を設置 |
| 11年9月 | 関東鉄道(株)、日本観光バス(株)、竜ヶ崎観光バス(株)各社の貸切バス事業を関鉄観光バス(株)が譲受 |
| 12年3月 | 日本観光バス(株)と竜ヶ崎観光バス(株)が合併し、(株)関鉄クリエイトとなる |
| 12年9月 | 関鉄鹿島タクシー(株)が関鉄潮来タクシー(株)と合併 |
| 12年10月 | (株)関鉄ゴルフセンターが関鉄パープルバス(株)に商号変更 関鉄パーキング(株)が関鉄メロンバス(株)に商号変更 |
| 13年6月 | 関東鉄道(株)の路線バス事業の一部を関鉄パープルバス(株)、関鉄メロンバス(株)が譲受 |
| 14年3月 | 関鉄グリーンバス(株)設立 |
| 14年7月 | 関東鉄道(株)の路線バス事業の一部を関鉄グリーンバス(株)が譲受 |
| 15年9月 | 関東情報サービス(株)の東京事業所開設 |
| 16年10月 | 関鉄筑波商事(株)が土浦市乙戸南「サニーコート乙戸南」10棟42戸の賃貸開始 |
| 17年8月 | 関鉄メロンバス(株)の路線バス事業を関鉄グリーンバス(株)が譲受 |
| 17年8月 | 関鉄土浦タクシー(株)がつくばセンター交通広場にタクシー乗り入れ開始 |
| 19年3月 | 鹿島鉄道(株)が鹿島鉄道線(石岡～銚田間)を廃止し、鉄道事業から撤退 |
| 21年3月 | 関鉄県南タクシー(株)が関鉄常総タクシー(株)と関鉄取手タクシー(株)を吸収合併 |
| 22年8月 | 関鉄グリーンバス(株)が旧鹿島鉄道線を利用したBRT(バス高速輸送システム)路線運行開始 |
| 24年6月 | 関鉄水戸タクシー(株)が関鉄笠間ハイヤー(株)を吸収合併 |

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社14社で構成され、その営んでいる主要な事業内容は、次の通りです。

(1) 運輸業（8社）

| 事業の内容 | 会社名 |
|-------|--|
| 鉄道事業 | 当社 |
| バス事業 | 当社、関鉄観光バス(株) 1、関鉄パープルバス(株) 1、関鉄グリーンバス(株) 1 |
| タクシー業 | 関鉄水戸タクシー(株) 1、関鉄土浦タクシー(株) 1、関鉄県南タクシー(株) 1 関鉄ハイヤー(株) 1 |

(2) 不動産業（4社）

| 事業の内容 | 会社名 |
|--------|---------------------------------------|
| 分譲、賃貸業 | 当社、関鉄筑波商事(株) 1、鹿島鉄道(株) 1、(株)関鉄クリエイト 1 |

(3) 流通業（2社）

| 事業の内容 | 会社名 |
|--------|------------------------|
| 物品販売業 | 常総産業(株) 1、(株)関鉄クリエイト 1 |
| 骨材の販売業 | 常総産業(株) 1 |

(4) レジャー・サービス業（3社）

| 事業の内容 | 会社名 |
|---------|---------------|
| 情報サービス業 | 関東情報サービス(株) 1 |
| 旅行業 | 関鉄観光(株) 1 |
| ゴルフ練習場業 | 関鉄筑波商事(株) 1 |

(5) 自動車車両整備業（1社）

| 事業の内容 | 会社名 |
|----------|--------------|
| 自動車車両整備業 | 関鉄自動車工業(株) 1 |

- (注) 1. 連結子会社
 2. 上記部門の会社数には、当社及び子会社3社が重複して含まれています。
 3. 上記事業区分は、セグメント情報における事業区分と同一です。

4 【関係会社の状況】

| 名称 | 住所 | 資本金 (千円) | 事業内容 | 議決権の 所有割合 又は被所有 割合(%) | 関係内容 | | | | 摘要 |
|-----------------------|-------------|-------------|----------------------------------|--------------------------------|-------|------|------------|----------------------|----------|
| | | | | | 役員の兼任 | 資金援助 | 営業上の 取引 | 設備の 賃貸借 | |
| (連結子会社) 関鉄筑波商事(株) | 茨城県 土浦市 | 50,000 | 不動産業・ゴ ルフ練習場業 | 100.0 | あり | なし | あり | 土地の賃貸借 | |
| 鹿島鉄道(株) | 茨城県 土浦市 | 100,000 | 不動産業 | 100.0 | あり | あり | あり | 土地の賃貸借 | 注1 注2 |
| 常総産業(株) | 茨城県 常総市 | 10,000 | 砂利砕石の生 産販売、自動 車のタイヤの 販売 | 94.5 | あり | なし | あり | 土地の賃借 | |
| 関鉄自動車工業(株) | 茨城県 土浦市 | 10,000 | 自動車の整備 改造 | 100.0 | あり | なし | あり | 建物の賃貸 | |
| 関鉄観光バス(株) | 茨城県 土浦市 | 70,000 | 一般乗合・貸 切旅客自動車 運送業 | 100.0 | あり | なし | あり | 土地・建物・ 車両の賃貸 | 注1 |
| 関東情報サービス(株) | 茨城県 土浦市 | 40,000 | コンピュー ターサービス 事業 | 100.0 | あり | なし | あり | 建物の賃貸 | |
| 関鉄水戸タクシー(株) | 茨城県 水戸市 | 12,500 | 一般乗用旅客 自動車運送業 | 100.0 | あり | なし | あり | 建物の賃貸 | |
| 関鉄県南タクシー(株) | 茨城県 守谷市 | 20,000 | 一般乗用旅客 自動車運送業 | 100.0 | あり | なし | あり | 車両の賃貸 | |
| 関鉄観光(株) | 茨城県 土浦市 | 26,000 | 旅行業 | 100.0 | あり | なし | あり | 建物の賃貸 | |
| 関鉄土浦タクシー(株) | 茨城県 つくば市 | 13,000 | 一般乗用旅客 自動車運送業 | 100.0 | あり | あり | あり | 土地・建物の 賃貸 | 注2 |
| 関鉄ハイヤー(株) | 茨城県 石岡市 | 10,000 | 一般乗用旅客 自動車運送業 | 100.0 | あり | なし | あり | 建物の賃貸 | |
| 株関鉄クリエイト | 茨城県 土浦市 | 30,000 | 不動産業・物 販業 | 100.0 | あり | なし | あり | 土地の賃貸 借・建物の賃 貸 | |
| 関鉄パープルバス(株) | 茨城県 下妻市 | 30,000 | 一般乗合・貸 切旅客自動車 運送業 | 100.0 | あり | なし | あり | 土地・建物・ 車両の賃貸 | |
| 関鉄グリーンバス(株) | 茨城県 石岡市 | 30,000 | 一般乗合・貸 切旅客自動車 運送業 | 100.0 | あり | なし | あり | 土地・建物の 賃貸 | |
| (その他の関係会社) 京成電鉄(株) | 千葉県 市川市 | 36,803,841 | 鉄道事業 | 被所有 30.0 | あり | なし | あり | なし | 注3 |

- (注) 1. 上記子会社のうち鹿島鉄道(株)、関鉄観光バス(株)の2社は、特定子会社です。
 2. 鹿島鉄道(株)、関鉄土浦タクシー(株)は、債務超過会社であり、平成26年2月末時点では債務超過額は鹿島鉄道(株)が127,407千円、関鉄土浦タクシー(株)が47,073千円です。
 3. 京成電鉄(株)は、有価証券報告書の提出会社です。
 4. 関東情報サービス(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えています。

| | | |
|----------|-------|--------------|
| 主要な損益情報等 | 売上高 | 2,086,768 千円 |
| | 経常利益 | 32,211 " |
| | 当期純利益 | 11,785 " |
| | 純資産額 | 212,927 " |
| | 総資産額 | 646,212 " |

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(単位：人)(平成26年3月31日現在)

| 運輸業 | 不動産業 | 流通業 | レジャー・サービス業 | 自動車車両整備業 | 計 |
|----------------|-----------|------------|--------------|------------|----------------|
| 1,080 (475) | 13 (2) | 13 (11) | 145 (100) | 37 (15) | 1,288 (603) |

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しています。

(2) 提出会社の状況

(平成26年3月31日現在)

| 従業員数 | 平均年齢 | 平均勤続年数 | 平均年間給与 |
|---------------|-------|--------|------------|
| 750人 (242) | 44.1歳 | 16.06年 | 4,614,038円 |

(単位：人)(平成26年3月31日現在)

| 運輸業 | 不動産業 | 流通業 | レジャー・サービス業 | 自動車車両整備業 | 計 |
|----------|------|-----|------------|----------|----------|
| 739(242) | 11 | | | | 750(242) |

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しています。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでいます。

(3) 労働組合の状況

労働組合との間に特記すべき事項はありません。

なお、提出会社には関東鉄道労働組合があり、平成26年3月31日現在、組合員数は723名(出向者含む)で日本私鉄労働組合総連合会(私鉄総連)に加盟しています。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、株価の回復や円高の是正等を背景として、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら交通事業においては、少子高齢化や原油高の影響もあり、依然として厳しい状況が続きました。

このような状況のもとで、当社グループは、全事業にわたり積極的な営業活動を展開するとともに、経営の効率化を図り、収益力と旅客サービスの向上に努めました。

この結果、全事業営業収益は157億205万2千円で、前期に比べ0.5%(7,558万9千円)の増収、全事業営業利益は5億97万3千円で、前期に比べ15.8%(9,408万7千円)の減益となりました。経常利益は3億4,984万6千円で、前期に比べ14.5%(5,943万9千円)の減益となりましたが、当期純利益は4億5,128万8千円で、前期に比べ9,173万4千円の増益となりました。

〔運輸業〕

鉄道事業では、常総線において、キハ0形4両の更新工事、西取手駅自動券売機の代替、新取手駅ホーム上屋改修工事等を実施しサービスの改善を図ったほか、PC枕木化、特殊信号発光機設置及び自動列車停止装置(ATIS)の増設を行い、安全輸送の確保に努めました。

営業面では、「駅からハイキング」「ビール列車」を開催したほか、常総線開業100周年を記念した各種イベントやグッズ販売等を行い、旅客誘致と増収に努めました。

また、西取手駅・新取手駅・稲戸井駅の無人化及び石下駅の囑託化を実施し業務の効率化に努めました。

バス事業では、一般路線において、牛久市コミュニティバスのルート拡大や深夜バス「取手駅西口～水海道駅線」の運行を開始するなどお客様のニーズに対応したほか、不採算路線の廃止や再編を行い、輸送の効率化に努めました。

高速バス路線では、「鹿島神宮駅～東京駅線」において通勤・通学定期券の発売や深夜便の運行を開始したほか、「波崎～東京駅線」においてもICカードサービスの提供を開始し、利便性の向上を図りました。

貸切バスでは、清真学園スクールバスの契約拡大やつくばみらい市スクールバスの新規受託、常総学院甲子園輸送を受注するなど増収に努めました。

また、潮来営業所の新築移転を実施し、走行キロの削減と業務の効率化を図りました。

タクシー事業では、新規の契約輸送や茨城空港デマンドタクシーの運行を開始したほか、ハイブリッドタクシーの増備など、サービスの向上及び燃料費の節減に努めました。また、駅構内乗り入れの拡大など営業基盤の強化と稼働率の向上を図りました。

なお、消費税率引き上げ相当分の転嫁のため、鉄道、バス及びタクシー運賃の変更に係る認可申請を行い、本年4月から新運賃での営業を行っております。

以上の結果、営業収益は115億678万9千円で、前期に比べ0.3%(2,912万4千円)の増収となりましたが、営業損失は145万3千円で、前期に比べ5,549万9千円の減益となりました。

(業種別営業成績表)

| 業種別 | 当連結会計年度 (25.4.1~26.3.31) | |
|-------|-----------------------------|--------|
| | 営業収益 | 対前年増減率 |
| 鉄道事業 | 2,357,343千円 | 0.7% |
| バス事業 | 8,145,278 | 0.1 |
| タクシー業 | 1,056,444 | 0.3 |
| 消去 | 52,276 | |
| 営業収益計 | 11,506,789 | 0.3 |

(注) セグメント間の取引については相殺消去しています。

提出会社の鉄道事業運輸成績表

| 業種別 | 単位 | 第143期 (25.4.1~26.3.31) | | |
|--------|-----|---------------------------|-----------|-----|
| | | | 対前年増減率 | |
| 営業日数 | 日 | 365 | 0.0% | |
| 営業キロ | キロ | 55.6 | 0.0 | |
| 客車走行キロ | 千キロ | 3,506 | 1.3 | |
| 輸送人員 | 定期 | 千人 | 6,362 | 1.6 |
| | 定期外 | " | 4,125 | 0.9 |
| | 計 | " | 10,487 | 1.3 |
| 旅客運輸収入 | 定期 | 千円 | 1,047,179 | 0.5 |
| | 定期外 | " | 1,163,348 | 1.0 |
| | 計 | " | 2,210,528 | 0.8 |
| 運輸雑収 | " | 146,815 | 0.2 | |
| 収入合計 | " | 2,357,343 | 0.7 | |
| 一日平均収入 | " | 6,458 | 0.7 | |
| 乗車効率 | % | 14.5 | | |

(注) 乗車効率の算出方法

$$\text{乗車効率} = \frac{\text{延人}^{\ast} \text{ (駅間通過人員} \times \text{駅間}^{\ast} \text{ 程)}}{\text{(客車走行}^{\ast} \text{ 千} \times \text{平均定員)}} \times 100$$

〔不動産業〕

分譲業では、「つくば市学園の森(研究学園)」「土浦市おおつ野」など計11区画を販売しました。

賃貸業では、取手市に「西取手賃貸建物」や桜川市に高齢者向け住宅「エルスリー茨城真壁(B棟)」を新築し賃貸を開始しました。また、テナント・アパートの空室解消を図り、稼働率の向上に努めました。

建設業では、関連会社の社屋改修工事や一般住宅の改修工事などを受注しました。

以上の結果、営業収益は10億6,588万8千円で、前期に比べ2.5%(2,717万6千円)の減収となり、営業利益は3億8,156万2千円で、前期に比べ4.4%(1,759万5千円)の減益となりました。

(業種別営業成績表)

| 業種別 | 当連結会計年度 (25.4.1~26.3.31) | |
|--------|-----------------------------|--------|
| | 営業収益 | 対前年増減率 |
| 不動産分譲業 | 133,537千円 | 21.5% |
| 不動産賃貸業 | 1,003,842 | 0.8 |
| 消去 | 71,490 | |
| 営業収益計 | 1,065,888 | 2.5 |

(注) セグメント間の取引については相殺消去しています。

〔流通業〕

バラスト用砕石やタイヤの販売など積極的な営業活動を展開し、販売力強化を図りました。

以上の結果、営業収益は6億4,382万5千円で、前期に比べ11.7%(6,750万円)の増収となり、営業利益は1,514万1千円で、前期に比べ681万1千円の増益となりました。

(業種別営業成績表)

| 業種別 | 当連結会計年度 (25.4.1~26.3.31) | |
|-------|-----------------------------|--------|
| | 営業収益 | 対前年増減率 |
| 砕石業 | 222,299千円 | 11.6% |
| タイヤ業 | 291,173 | 16.8 |
| 物品販売業 | 130,352 | 1.9 |
| 消去 | | |
| 営業収益計 | 643,825 | 11.7 |

(注) セグメント間の取引については相殺消去しています。

〔レジャー・サービス業〕

情報サービス業では、ソフト開発や携帯電話販売を中心に積極的な営業活動を展開いたしました。

旅行業では、特別謝恩セール「草津温泉・大町温泉・房総勝浦温泉の旅」や「ミステリーツアー」「女性限定ツアー」など募集型企画旅行を中心に旅客誘致に努めました。

以上の結果、営業収益は24億6,505万1千円で、前期に比べ1.5%(3,596万4千円)の増収となりましたが、営業利益は8,001万7千円で、前期に比べ14.5%(1,359万8千円)の減益となりました。

(業種別営業成績表)

| 業種別 | 当連結会計年度 (25.4.1~26.3.31) | |
|---------|-----------------------------|--------|
| | 営業収益 | 対前年増減率 |
| 情報サービス業 | 2,255,015千円 | 2.7% |
| ゴルフ練習場業 | 34,207 | 2.0 |
| 旅行業 | 180,716 | 13.9 |
| 消去 | 4,888 | |
| 営業収益計 | 2,465,051 | 1.5 |

(注) セグメント間の取引については相殺消去しています。

〔自動車車両整備業〕

車両の電子部品の検査ツール導入やリフトの増設および代替を行い、作業の効率化と安全性の向上を図りました。営業面では、車検整備の受注を中心に積極的な営業活動を展開いたしました。

以上の結果、営業収益は5億3,363万7千円で、前期に比べ0.4%(221万3千円)の増収となり、営業利益は4,369万8千円で、前期に比べ9.3%(371万1千円)の増益となりました。

(業種別営業成績表)

| 業種別 | 当連結会計年度 (25.4.1~26.3.31) | |
|----------|-----------------------------|--------|
| | 営業収益 | 対前年増減率 |
| 自動車車両整備業 | 533,637千円 | 0.4% |
| 消去 | | |
| 営業収益計 | 533,637 | 0.4 |

(注) セグメント間の取引については相殺消去しています。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期に比べ5億2,211万5千円増加し、15億5,517万9千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動の結果得られた資金は、19億7,744万2千円で、前期に比べ3億5,786万7千円の増加（前期比22.1%増）となりました。

これは、主に消費税の引き上げ前の定期券の先行購入で、前受金が1億5,176万5千円の増加、佐原営業所移転補償金の受取額が4,320万円増加、受取賠償金が5,780万4千円増加したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動の結果支出した資金は、7億5,764万4千円で、前期に比べ1億7,910万9千円の増加（前期比31.0%増）となりました。

これは、主に前期取得した鉄道車両代の支払など、有形固定資産の取得費用が、前期に比べ2億9,653万2千円増加したことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動の結果支出した資金は、6億9,468万2千円で、前期に比べ2億2,059万8千円の減少（前期比24.1%減）となりました。

これは、主に借入金の返済によるものです。

2 【生産、受注及び販売の状況】

当社及び連結子会社の事業内容は、役務の提供を主たる事業としており、生産、受注及び販売の状況について、金額あるいは数量で示すことはしていません。

そのため、生産、受注及び販売の状況については、「1.業績等の概要」における事業のセグメントごとに業績に関連付けて示しています。

3 【対処すべき課題】

当社グループを取り巻く事業環境は、少子高齢化や原油高の影響、規制緩和による競争の激化など厳しい状況にあります。茨城県内の高速道路網の拡充や茨城空港への就航便の増加、つくばエクスプレス沿線開発など交通インフラの整備や地域活性化の動きも進展しております。

当社グループといたしましては、現在遂行中の関鉄グループ中期経営計画「Step Up Plan」(3カ年)を積極的に推進し、運輸業の根幹である安全第一の考え方をベースに、安心・良質なサービスの提供とグループ経営基盤の強化により地域社会の発展に貢献し、お客様から信頼され愛される企業集団を目指して諸施策に取り組んでまいります。

運輸業のうち鉄道事業では、沿線地域との連携により需要喚起策の展開を図るとともに、旅客動向に応じた効率的なダイヤと業務体制の見直しを実施するほか、車両の代替を計画的に行いサービスの向上に努めてまいります。

バス事業では、車両の代替や低床バスの導入を推進し、旅客サービスの向上を図るとともに、交通インフラの整備に対応した高速バス路線の新設、地域住民の流動実態に即した一般路線の新設・再編成、コミュニティバスの受注拡大により、収益力の強化に努めてまいります。

さらに、デジタルタコグラフやドライブレコーダーの活用により、安全性の向上や燃料費節減、環境対策を図るとともに、緊急時における的確な状況把握にも努めてまいります。

また、運輸業においては、更なる安全輸送の確保のため、安全に関する内部監査を実施し、運輸安全マネジメント体制の強化を図ってまいります。

不動産業では、事業環境の変化や市場動向に対応した宅地販売を促進するとともに高齢者向け住宅の建設を進めるほか、既存物件のリニューアルなどにより、安定収益の確保を図ってまいります。

流通業、レジャー・サービス業などにおきましても、積極的な営業活動を展開し、業績の向上を図り、収益確保に努めてまいります。

また、コンプライアンス体制を充実させ、法令・社会規範の遵守と企業の社会的責任の遂行に取り組むとともに、「B M K(ベストマナー向上)推進運動」を積極的に推進し、より一層のサービス向上に努めてまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項は以下の通りです。

また、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものです。

(1) 原油高による軽油代の高騰

当社グループの運輸業のうち、鉄道・バス事業ともに、動力機関がディーゼルであるため、燃料に軽油を使用しております。シリアをはじめとする中東情勢の不安定化や円安の進行など、原油価格の高止まり傾向により燃料費が高騰し、損益に影響が及んでおりますが、今後も続く可能性があります。

(2) 自然災害等

当社グループは、茨城県県南エリアを中心に事業を展開しておりますが、その事業エリアで地震・竜巻・台風等の自然災害、事故等が発生した場合、損益に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 少子高齢化、モータリゼーションの普及による利用客の減少

運輸業の全国的な傾向として、少子高齢化などによる利用者の減少傾向が見られます。また、当社グループの営業エリアである茨城県においては、高速道路、バイパス、新規道路の開通による道路網の整備により、移動時間が短縮するなど、走行環境が他県に比べて向上しているため、1世帯当たり自家用車普及台数が1.63台と、全国でも7位というデータ（平成25年3月末：自動車検査登録情報協会）が示すとおり、マイカーの普及が著しくなっています。このような経営環境の中で、当社グループの収入のうち、鉄道・バス・タクシーなどの運輸業が約73%を占めるに至っており、利用者の減少が損益に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 長期金利上昇等に伴う借入金の金利高

当社グループは鉄道・バス事業を中心とした運輸業であり、安全運行の確保に必要な設備投資を行うため、長期借入金への依存度が高くなっています。今後とも有利子負債の圧縮や金利の固定化などによる金利上昇のリスク回避に努めてまいります。今後、経済の回復に伴う急速かつ大幅な金利上昇があった場合、損益に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものです。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき、作成されています。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、営業収益及び当期純利益は増益となりました。

営業収益は、当社グループ全体の約73%を占める運輸業では、鉄道事業において、「常総線開業100周年イベント」や「駅からウォーク」「ビール列車」などのイベントを積極的に実施し、バス事業においては、高速バス路線「鹿島神宮駅～東京駅線」において通勤・通学定期券の発売及び深夜便「取手駅西口～水海道駅線」の運行を開始した結果、115億678万9千円で、前期に比べ0.3%（2,912万4千円）の増収となりました。

不動産業では、不動産分譲業で宅地販売が減収、不動産賃貸業でも高齢者向け住宅等の新規賃貸物件によるテナント入居者の募集をしましたが、10億6,588万8千円で、前期に比べ2.5%（2,717万6千円）の減収となりました。

流通業では、物品販売業での増収により、6億4,382万5千円で、前期に比べ11.7%（6,750万円）の増収となりました。

レジャー・サービス業では、情報サービス業において携帯電話器の販売増、システム開発の受注増により、24億6,505万1千円で、前期に比べ1.5%（3,596万4千円）の増収となりました。

自動車車両整備業では、車検整備を中心とした受注の増加により、5億3,363万7千円で、前期に比べ0.4%（221万3千円）の増収となりました。その結果、グループ全体で営業収益は157億205万2千円で、前期に比べ0.5%（7,558万9千円）の増収となりました。

営業利益は、運輸業のうち鉄道事業において、西取手駅・新取手駅・稲戸井駅の日中無人化を実施し、業務の効率化に努め、バス事業においては、一般路線について、不採算路線の廃止及び再編をするなど、効率的な経営を目指しました。しかし、貸切バスの低迷、人件費の増加や動力費のコストアップによる経費の増加により、145万3千円の損失で、前期に比べ102.7%（5,549万9千円）の減益となりました。不動産業では、3億8,156万2千円で、前期に比べ4.4%（1,759万5千円）の減益、流通業では、1,514万1千円で、前期に比べ81.8%（681万1千円）の増益、レジャー・サービス業では、8,001万7千円で、前期に比べ14.5%（1,359万8千円）の減益、自動車車両整備業では、4,369万8千円で、前期に比べ9.3%（371万1千円）の増益となり、その結果、グループ全体では営業利益は5億97万3千円となり、前期に比べ15.8%（9,408万7千円）の減益となりました。

営業外収益は、8,884万2千円で、バス車両の売却利益などの減少により、前期に比べ23.2%（2,677万1千円）の減少、営業外費用は2億3,997万円で、支払利息が減少したことなどにより前期に比べ20.4%（6,141万8千円）の減少となりました。これにより、経常利益は3億4,984万6千円で、前期に比べ14.5%（5,943万9千円）の減益となりました。

特別利益は、佐原営業所の移転による補償金受入れのほか、賠償金の受取りなどにより5億2,445万3千円となりました。特別損失は、補助金受入による固定資産圧縮損の計上などにより、2億641万3千円となりました。これにより、当期純利益は4億5,128万8千円で、前期に比べ25.5%（9,173万4千円）の増益となりました。

(3) 当連結会計年度の財政状態の分析

当社グループの当連結会計年度の財政状態のうち、資産合計は266億3,206万1千円で、前期末に比べ3.7%（9億3,960万2千円）の増加となりました。これは、主として、現金及び預金が潮来営業所の新築工事代金等の未払いや、消費税引上げ前の定期券の先行購入の発生などにより5億3,962万2千円増加、受取手形及び売掛金が2億564万8千円増加、リース投資資産が1億160万9千円増加したことによるものです。

負債合計は218億4,246万4千円で、前期末に比べ4.6%（9億6,173万1千円）の増加となりました。これは主に退職給付引当金が会計基準の変更により退職給付に係る負債として前期末に比べ8億178万8千円増加し、さらに未払金及び前受運賃の発生により増加したことによるものです。

純資産合計は47億8,959万7千円で、前期末に比べ0.5%（2,212万8千円）の減少となりました。これは主に利益剰余金が4億円増加したものの、その他の包括利益累計額が4億781万円減少し、さらに、少数株主持分が前期末に比べ1,413万1千円減少したことによるものです。

(4) キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度のキャッシュ・フローの概況については、「第2 事業の状況 1.業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの分析」に記載のとおりであります。

(5) 将来への経営成績及び財政状態に関する、基本的な戦略及び見通し

当社グループは、経営基盤と体質の強化に努め、企業価値を増大することで、企業の安定化を図ると同時に、地域社会に貢献することを目指しています。

経営成績に関しては、当社グループの主力である運輸業での収入の減少傾向が続いているなかで、原油価格の高騰によって動力費が一時的に増大し、現在は落ち着きを見せているものの、今後は更なる高騰も予想されます。また少子化による輸送量の減少も当社グループを取り巻く環境へ厳しさに拍車をかけるものと予想されます。これらの状況を踏まえ、組織及び業務の見直しを迅速かつ柔軟に行い、引き続き人件費をはじめとする経費削減と、不採算路線の整理、新規路線の拡充など、利益の確保に努めてまいります。また、安定した利益確保に向けて、不動産部門の拡充を図ってまいります。

財政状態に関しては、安全運行の確保並びにサービスの改善に必要な設備投資を行います。今後とも有利子負債の削減を推進するとともに、支払利息の軽減を図り、財務体質の改善を推進いたします。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、13億4,114万8千円となり、前連結会計年度に比べ1,936万2千円の減少（前期比1.4%減）となりました。また、保有目的の変更に伴い、ひたち野うしく分譲用地はたな卸資産から土地（賃貸事業用資産）に振替えております。

なお、設備投資の金額には、ソフトウェア等無形固定資産への投資額も含めています。事業の種類別セグメントの設備投資は次のとおりです。

| | 当連結会計年度 | 対前期増減率 |
|------------|-------------|--------|
| 運輸業 | 1,230,256千円 | 7.7% |
| 不動産業 | 85,381 | 265.5 |
| 流通業 | 3,695 | 39.5 |
| レジャー・サービス業 | 3,928 | 100.0 |
| 自動車車両整備業 | 17,887 | 751.8 |
| 小計 | 1,341,148千円 | 1.4% |
| 消去又は全社 | | |
| 合計 | 1,341,148千円 | 1.4% |

各セグメントの主な設備投資内容は、次のとおりです。

運輸業

安全輸送の確保と旅客サービスの向上を目的とした設備投資を実施いたしました。

| 工事件名 (提出会社) | 投資金額 千円 |
|----------------|------------|
| 潮来営業所新築・移転 | 343,335 |
| 高速バス新車（リース） 4両 | 131,921 |
| 乗合バス新車（リース） 5両 | 90,211 |
| 乗合バス新車・中古車 13両 | 88,357 |
| 鉄道車両更新 4両 | 43,322 |

不動産業

安定した収入を得るために、リース投資資産に係る設備投資を実施いたしました。

| 工事件名 (関鉄筑波商事株) | 投資金額 千円 |
|--------------------|------------|
| 桜川市高齢者向住宅（リース投資資産） | 104,000 |

2 【主要な設備の状況】

当社グループ（当社及び連結子会社）の平成26年3月31日現在におけるセグメント毎の設備の概要、帳簿価額並びに従業員数は次のとおりです。

(1) セグメント総括表

(平成26年3月31日現在)

| セグメント の名称 | 帳簿価額（千円） | | | | | | 従業員数 （名） |
|----------------|-------------|---------------|--------------------------|--------|---------|------------|----------------|
| | 建物及び 構築物 | 機械装置 及び運搬具 | 土地 (面積㎡) | 建設仮勘定 | その他 | 合計 | |
| 運輸業 | 4,428,838 | 2,318,751 | 3,404,761 (1,127,739) | 850 | 211,580 | 10,364,781 | 1,080 (475) |
| 不動産業 | 2,919,825 | 37,395 | 5,231,533 (138,281) | 20,714 | 447,535 | 8,657,004 | 13 (2) |
| 流通業 | 24,316 | 882 | 117,450 (19,933) | | 4,483 | 147,133 | 13 (11) |
| レジャー・ サービス業 | 57,550 | 3,162 | 410,706 (25,602) | | 8,401 | 479,820 | 145 (100) |
| 自動車車両 整備業 | 118,697 | 4,342 | 363,304 (21,010) | 11,928 | 2,909 | 501,181 | 37 (15) |
| 小計 | 7,549,228 | 2,364,534 | 9,527,756 (1,332,566) | 33,492 | 674,909 | 20,149,921 | 1,288 (603) |
| 消去又は全社 | 2,301 | 6 | 1,604,901 () | | 303 | 1,607,512 | |
| 合計 | 7,546,926 | 2,364,528 | 7,922,855 (1,332,566) | 33,492 | 674,605 | 18,542,408 | 1,288 (603) |

- (注) 1. 帳簿価額「その他」は工具器具備品及びリース投資資産の金額を含めています。
 2. 提出会社の各事業関連施設の帳簿価額（82,557千円）、土地面積（6,397㎡）については、運輸業及び不動産業に配賦しています。
 3. 臨時従業員数は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しています。

上記の他、連結会社以外の者から賃借している主要な設備として、以下のリース車両があります。

| 会社名 | 台数 | 年間賃借料（千円） | リース契約残高（千円） |
|----------------------|----|-----------|-------------|
| (提出会社) 関東鉄道(株) | 24 | 58,306 | 58,928 |
| (国内子会社) 関鉄観光バス(株) | 5 | 22,409 | 30,593 |

(注) 上記の賃借リース車両は、営業用車両を記載しています。

(2) 運輸業（従業員数 1,080人）

鉄道事業

a 線路及び施設

(平成26年3月31日現在)

| 会社名 | 区間 | 単線・複線の別 | 営業キロ(km) | 駅数 |
|---------------|----------|---------|----------|----|
| (提出会社) 常総線 | 取手駅～下館駅 | 複線・単線 | 51.1 | 25 |
| 竜ヶ崎線 | 佐貫駅～竜ヶ崎駅 | 単線 | 4.5 | 3 |

(注) 常総線、竜ヶ崎線の軌間は1.067m、非電化です。

b 車両数

(平成26年3月31日現在)

| 会社名 | 内燃客車(両) | 内燃機関車(両) | 計(両) |
|---------------|---------|----------|------|
| (提出会社) 常総線 | 58 | 1 | 59 |
| 竜ヶ崎線 | 3 | | 3 |

c 車庫及び工場

(平成26年3月31日現在)

| 会社名及び事業所名 | 所在地 | 建物及び構築物 | 土地 | |
|-------------------|--------|----------|---------------------|----------|
| | | 帳簿価額(千円) | 面積(m ²) | 帳簿価額(千円) |
| (提出会社) 水海道車両基地 | 茨城県常総市 | 273,125 | 28,521 | 619,288 |

バス事業

(平成26年3月31日現在)

| 会社名及び事業所名 | 所在地 | 建物及び構築物 | 土地 | | 在籍車両数(両) | | |
|-------------|---------|----------|---------------------|-----------|---------------------|---------------------|----------------------|
| | | 帳簿価額(千円) | 面積(m ²) | 帳簿価額(千円) | 乗合 | 貸切 | 計 |
| (提出会社) | | | | | | | |
| 水戸営業所 | 茨城県水戸市 | 18,080 | 18,107 | 20,037 | 72(39) | 5(2) | 77(41) |
| つくば北営業所 | ” つくば市 | 15,696 | 2,802(2,667) | 48,154 | 23(17) | 1 | 24(17) |
| 水海道営業所 | ” 常総市 | 8,302 | 6,538 | 50,872 | 52(22) | 6(3) | 58(25) |
| つくば中央営業所 | ” つくば市 | 21,128 | 8,702 | 134,245 | 77(50) | 4(1) | 81(51) |
| 取手営業所 | ” 取手市 | 10,387 | 3,287 | 1 | 29(5) | 2 | 31(5) |
| 土浦営業所 | ” 土浦市 | 16,917 | 11,728 | 456,110 | 74(21) | 5 | 79(21) |
| 竜ヶ崎営業所 | ” 龍ヶ崎市 | 8,914 | 2,181 | 34,765 | 37(10) | 1 | 38(10) |
| 潮来営業所 | ” 潮来市 | 341,926 | 6,759 | 108,340 | 32(26) | 2 | 34(26) |
| その他車庫等 | ” 稲敷市他 | 9,272 | 34,227 | 33,944 | 11(4) | 11 | 22(4) |
| 提出会社車両数小計 | | | | | 407(194) | 37(6) | 444(200) |
| (国内子会社) | | | | | | | |
| 関鉄観光バス(株) | 茨城県土浦市他 | {49,094} | (2,115) {1,296} | {4,714} | 12(2){3} | 59(24){22} | 71(26){25} |
| 関鉄パープルバス(株) | ” 下妻市 | {3,775} | {5,899} | {0} | 18(2){2} | 5{2} | 23(2){4} |
| 関鉄グリーンバス(株) | ” 石岡市他 | {18,177} | {22,066} | {102,368} | 57(2) | 6 | 63(2) |
| グループ車両数合計 | | | | | 494 (200) {5} | 107 (30) {24} | 601 (230) {29} |

3(注) 1. 提出会社の()内は連結会社以外の者から賃借中であり、車両については内数です。

2. 国内子会社の()内は連結会社以外の者から、{ }内は提出会社から賃借中であり、車両については内数です。

タクシー業

(平成26年3月31日現在)

| 会社名及び事業所名 | 所在地 | 建物及び構築物 | 土地 | | 在籍車両数 (両) |
|----------------------------------|---------|---------------|--------------|-----------------|--------------|
| | | 帳簿価額(千円) | 面積 (㎡) | 帳簿価額(千円) | |
| (国内子会社) 関鉄水戸タクシー(株) 本社営業所他 | 茨城県水戸市他 | 6,375{3,716} | 1,330{1,140} | 263,058{12,290} | 55(51) |
| 関鉄土浦タクシー(株) つくば学園営業所他 | " つくば市他 | 0{10,354} | 241(919) | 7,450 | 32(27) |
| 関鉄県南タクシー(株) 本社営業所他 | " 守谷市他 | 36,999 | 2,953 | 96,260 | 43(30){1} |
| 関鉄ハイヤー(株) 本社営業所他 | " 石岡市他 | 9,110{10,982} | 731(30) | 87,396 | 37(33) |

(注) 1. () は連結会社以外の者から賃借中であり、車両については内数です。
 2. { } 内は提出会社から賃借中であり、車両については内数です。

(3) 不動産業(従業員数 13人)

(平成26年3月31日現在)

| 会社名及び事業所名 | 所在地 | 建物及び構築物 | 土地 | | その他 | 摘要 |
|--------------|--------|--------------|-----------|--------------|---------------------|-------------------|
| | | 帳簿価額 (千円) | 面積 (㎡) | 帳簿価額 (千円) | リース 投資資産 (千円) | |
| (提出会社) | | | | | | |
| 関鉄土浦ビル | 茨城県土浦市 | 103,306 | 181 | 66,731 | | 鉄骨造吹付タイル張 6階建 |
| 関鉄土浦ビル | " 土浦市 | 173,000 | 400 | 125,913 | | 鉄骨造5階建 |
| 関鉄戸頭ビル | " 取手市 | 43,959 | 796 | 45,944 | | 鉄骨造3階建 |
| 関鉄つくばビル | " 土浦市 | 228 | 3,090 | 155,591 | | |
| 関鉄パーキング | " 水戸市 | 43,575 | 827 | 475,703 | | 鉄骨造5階建 |
| 関鉄佐貫ビル | " 龍ヶ崎市 | 56,714 | 324 | 0 | | 鉄骨造2階建 |
| 関鉄佐貫ビル | " 龍ヶ崎市 | 448,253 | | | | 鉄骨造3階建 |
| 真鍋2丁目貸店舗 | " 土浦市 | 74,193 | 5,186 | 471,753 | | 鉄骨造2階建他2棟 |
| つくば南貸店舗 | " 土浦市 | 84,862 | 6,491 | 263,846 | | 鉄骨造2階建他6棟 |
| つくば中央貸店舗 | " つくば市 | 56,523 | 3,099 | 71,991 | | 鉄骨造平屋建他3棟 |
| 水海道駅南賃貸建物1号店 | " 常総市 | 433,335 | 3,306 | 0 | | 鉄筋コンクリート造 10階建 |
| 水海道駅南賃貸建物2号店 | " 常総市 | 109,797 | 1,000 | 0 | | 鉄骨造2階建 |
| 鹿嶋市高齢者向住宅 | " 鹿嶋市 | | 2,235 | 20,982 | 210,043 | 木造2階建2棟 |
| (国内子会社) | | | | | | |
| 鹿島鉄道(株) | | | | | | |
| 石岡貸店舗 | 茨城県石岡市 | 66,451 | 931 | 471 | | 鉄骨造2階建 |
| 関鉄筑波商事(株) | | | | | | |
| 関鉄つくばビル | 茨城県土浦市 | 212,764 | | | | 鉄骨造6階建 |
| サニーコート乙戸南 | " 土浦市 | 203,082 | 5,614 | 275,563 | | 木造2階建10棟 |
| 桜川市高齢者向住宅 | " 桜川市 | | 1,592 | 920 | 201,361 | 木造2階建2棟 |

(4) 流通業（従業員数 13人）

(平成26年3月31日現在)

| 会社名及び事業所名 | 所在地 | 建物及び構築物 帳簿価額(千円) | 土地 | | 摘要 |
|---------------------------|-------------|---------------------|-------------|----------|----|
| | | | 面積 (㎡) | 帳簿価額(千円) | |
| (国内子会社) 常総産業(株) 本社他 | 茨城県常総市 他 | 23,848 | 19,933(830) | 117,450 | |

(注) () は連結会社以外の者から賃借中のものです。

(5) レジャー・サービス業（従業員数 145人）

(平成26年3月31日現在)

| 会社名及び事業所名 | 所在地 | 建物及び構築物 帳簿価額(千円) | 土地 | | 摘要 |
|-------------------------------|-------------|---------------------|--------|----------|--------|
| | | | 面積 (㎡) | 帳簿価額(千円) | |
| (国内子会社) 関東情報サービス(株) 本社他 | 茨城県土浦市 他 | 33,942 | 2,255 | 130,812 | 鉄骨造2階建 |
| 関東筑波商事(株) 関東ゴルフセンター | 茨城県土浦市 | 23,607 | 23,347 | 279,894 | ゴルフ練習場 |

(6) 自動車車両整備業（従業員数 37人）

(平成26年3月31日現在)

| 会社名及び事業所名 | 所在地 | 建物及び構築物 帳簿価額(千円) | 土地 | | 摘要 |
|-------------------------------|------------|---------------------|--------|----------|--------|
| | | | 面積 (㎡) | 帳簿価額(千円) | |
| (国内子会社) 関東自動車工業(株) 土浦工場 | 茨城県かすみがうら市 | 118,697 | 21,010 | 363,304 | 鉄骨造平屋建 |

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資計画については、景気予測、投資効率等を勘案して、原則的には連結会社各社が個別に策定していますが、グループ全体として重複投資とならないよう、提出会社を中心に調整を図っています。

なお、当連結会計年度末における重要な設備の新設、除却等の計画は以下のとおりです。

(1) 重要な設備の新設等

| セグメントの名称 | 設備の内容 | 工事計画金額 | | 主な資金調達方法 | 着手及び完了予定年月 | |
|----------|----------|---------|----------|--------------------------------|------------|----------|
| | | 総額(千円) | 既支払額(千円) | | 着手 | 完了 |
| 運輸業 | 運転状況記録装置 | 103,200 | | 借入及び自己資金 借入、自己資金及びファイナンスリース | 平成27年2月 | 平成27年2月 |
| | 新造車13両 | 346,000 | | | 平成27年3月 | 平成27年3月 |
| 不動産業 | 賃貸建物新設 | 552,070 | 20,714 | 借入及び自己資金 借入及び自己資金 | 平成26年5月 | 平成26年12月 |
| | 分譲土地購入 | 200,000 | | | 平成26年4月 | 平成26年10月 |

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 40,800,000 |
| 計 | 40,800,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 事業年度末現在 発行数(株) (平成26年3月31日) | 提出日現在 発行数(株) (平成26年6月26日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|-----------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|--------------------|
| 普通株式 | 10,200,000 | 同左 | 該当なし | 単元株式数は1,000株であります。 |
| 計 | 10,200,000 | 同左 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (千株) | 発行済株式 総数残高 (千株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|---------------|------------------------|-----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成4年12月12日(注) | 1,700 | 10,200 | 85 | 510 | | 36 |

(注) 有償の株主割当増資2割

(6) 【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

| 区分 | 株式の状況(1単元の株式数1,000株) | | | | | | | 単元未満 株式の状況 (株) | |
|-----------------|----------------------|------|--------------|------------|-------|----|-----------|----------------------|---------|
| | 政府及び 地方公共 団体 | 金融機関 | 金融商品 取引業者 | その他の 法人 | 外国法人等 | | 個人 その他 | | 計 |
| | | | | | 個人以外 | 個人 | | | |
| 株主数 (人) | | 1 | | 16 | | | 696 | 713 | |
| 所有株式数 (単元) | | 480 | | 3,864 | | | 5,622 | 9,966 | 234,000 |
| 所有株式数 の割合(%) | | 4.82 | | 38.77 | | | 56.41 | 100 | |

(注) 自己株式34,634株は「個人その他」に34単元、「単元未満株式の状況」に634株含めて記載しています。

(7) 【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数 (千株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|------------|------------------|---------------|------------------------------------|
| 京成電鉄株式会社 | 千葉県市川市八幡三丁目3番1号 | 3,051 | 29.92 |
| 株式会社常陽銀行 | 茨城県水戸市南町二丁目5番5号 | 480 | 4.71 |
| 濱 雄太郎 | 茨城県石岡市 | 470 | 4.61 |
| 東武鉄道株式会社 | 東京都墨田区押上一丁目1番2号 | 406 | 3.98 |
| 青木 昌司 | 茨城県常総市 | 213 | 2.09 |
| 関東鉄道従業員持株会 | 茨城県土浦市真鍋一丁目10番8号 | 206 | 2.02 |
| 茨城交通株式会社 | 茨城県水戸市袴塚三丁目5番36号 | 156 | 1.54 |
| 宗教法人青稲稲荷神社 | 茨城県常総市淵頭町2962番地 | 110 | 1.08 |
| 中山 敬之助 | 茨城県つくば市 | 75 | 0.74 |
| 白井 豊 | 茨城県常総市 | 63 | 0.62 |
| 計 | | 5,233 | 51.31 |

(注) 「発行済株式総数に対する所有株式数の割合」欄の発行済株式総数には、自己株式等34千株を含んでいます。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|----------------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 34,000 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 9,932,000 | 9,932 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 234,000 | | |
| 発行済株式総数 | 10,200,000 | | |
| 総株主の議決権 | | 9,932 | |

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式634株が含まれています。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 関東鉄道株式会社 | 茨城県土浦市真鍋一丁目10 番8号 | 34,000 | | 34,000 | 0.34 |
| 計 | | 34,000 | | 34,000 | 0.34 |

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

| 区分 | 株式数(株) | 価額の総額(円) |
|-----------------|--------|----------|
| 当事業年度における取得自己株式 | 2,698 | 634,030 |
| 当期間における取得自己株式 | | |

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めていません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

| 区分 | 当事業年度 | | 当期間 | |
|-----------------------------|--------|------------|--------|------------|
| | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) |
| 引き受ける者の募集を行った取得自己株式 | | | | |
| 消却の処分を行った取得自己株式 | | | | |
| 合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式 | | | | |
| その他() | | | | |
| 保有自己株式数 | 34,634 | | 34,634 | |

(注) 当期間における保有自己株式には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めていません。

3 【配当政策】

当社は、運輸事業を中心とする地域に密着した各種の事業を営む公共性の高い業種であり、安定的な経営基盤の確保に努めるとともに、配当についても安定配当を継続していくことを基本方針としています。

当期の配当については、景気低迷及び東日本大震災の影響を受け、厳しい経営環境下にはありましたが、当社の財務状況を総合的に判断し、1株当たり5円の配当といたしました。

また、当社の剰余金の配当は、年1回の期末配当を基本的な方針としています。配当の決定機関は、株主総会であります。

内部留保資金については、設備投資等の資金需要に備える所存であり、これは将来の利益を確保し、かつ株主各位への長期的に安定した配当に寄与するものと考えています。

また、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。中間配当の決定機関は、取締役会であります。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりです。

| 決議年月日 | 配当金の総額(千円) | 1株当たり配当額(円) |
|--------------------|------------|-------------|
| 平成26年6月25日定時株主総会決議 | 50,826 | 5 |

4 【株価の推移】

当社株式は非上場でありますので、該当事項はありません。

5 【役員 の 状 況】

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|--------|----------------|---------|--------------|--|-------|---------------|
| 取締役社長 | 代表取締役 | 米川 公 誠 | 昭和25年 3月30日生 | 平成14年 7月 京成電鉄株式会社人事部付部長 平成18年 6月 同社取締役 平成21年 6月 同社常務取締役 平成22年 6月 当社取締役 平成23年 6月 当社取締役副社長 平成23年 6月 京成電鉄株式会社専務取締役 平成24年 6月 当社取締役社長(現) 平成24年 6月 京成電鉄株式会社取締役(現) | (注) 2 | 12 |
| 取締役副社長 | 代表取締役 鉄道部担当 | 酒 寄 博 司 | 昭和27年 1月13日生 | 平成15年 7月 京成電鉄株式会社鉄道本部付部長 平成20年 6月 同社取締役 平成23年 6月 同社常務取締役 平成25年 6月 北総鉄道株式会社取締役副社長 (現) 平成25年 6月 京成電鉄株式会社取締役(現) 平成26年 6月 当社取締役副社長(現) | (注) 2 | |
| 常務取締役 | 総務部担当 | 酒 寄 新 一 | 昭和29年 1月 1日生 | 昭和51年 5月 当社入社 平成17年 7月 当社総務部次長 平成19年 7月 当社自動車部長 平成21年 6月 当社取締役自動車部長 平成22年10月 当社取締役総務部長 平成25年 6月 当社常務取締役(現) | (注) 2 | 7 |
| 常務取締役 | 経理部担当 | 大 塚 聡 | 昭和30年 1月10日生 | 昭和52年 5月 当社入社 平成19年 7月 当社経理部次長 平成21年 7月 当社経理部長 平成22年 6月 当社取締役経理部長 平成26年 6月 当社常務取締役(現) | (注) 2 | 7 |
| 取締役 | 開発部担当 | 桑 原 靖 幸 | 昭和32年 8月29日生 | 昭和56年 5月 当社入社 平成19年 7月 当社総務部次長 平成22年10月 当社開発部長 平成25年 6月 当社取締役開発部長(現) | (注) 2 | 7 |
| 取締役 | 自動車部担当 | 武 藤 成 一 | 昭和34年 4月 3日生 | 昭和57年 5月 当社入社 平成19年 7月 当社自動車部次長 平成22年10月 当社自動車部長 平成25年 6月 当社取締役自動車部長(現) | (注) 2 | 7 |
| 取締役 | | 三 枝 紀 生 | 昭和24年 2月11日生 | 平成11年 7月 京成電鉄株式会社人事部付部長 平成16年 6月 同社取締役 平成18年 6月 同社常務取締役 平成20年 6月 当社取締役(現) 平成20年 6月 京成電鉄株式会社専務取締役 平成22年 6月 同社取締役副社長 平成23年 6月 同社取締役社長(現) | (注) 2 | |

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|-------|----|-------|-------------|--|--------|---------------|
| 取締役 | | 佐藤 昇一 | 昭和24年11月9日生 | 昭和49年5月 当社入社 平成16年7月 当社鉄道部次長 平成18年7月 当社鉄道部長 平成20年6月 当社取締役鉄道部長 平成22年6月 当社常務取締役 平成26年6月 当社取締役(現) | (注)2 | 7 |
| 取締役 | | 荒川 安男 | 昭和24年6月28日生 | 昭和48年5月 当社入社 平成16年7月 当社自動車部次長 平成18年7月 当社自動車部長 平成19年4月 当社総務部付部長 平成20年6月 当社取締役総務部付部長 平成21年6月 当社取締役 平成22年10月 当社常務取締役 平成26年6月 当社取締役(現) | (注)2 | 7 |
| 常勤監査役 | | 豊田 英二 | 昭和23年6月17日生 | 昭和46年5月 当社入社 平成13年7月 当社自動車部次長 平成16年7月 当社総務部付部長 平成20年6月 当社常勤監査役(現) | (注)3 | 7 |
| 監査役 | | 花田 力 | 昭和19年1月15日生 | 平成10年6月 京成電鉄株式会社取締役鉄道副本部長 平成12年6月 同社常務取締役 平成14年6月 同社専務取締役 平成16年6月 当社監査役(現) 平成16年6月 京成電鉄株式会社取締役社長 平成23年6月 同社取締役会長(現) | (注)1,3 | |
| 監査役 | | 園部 浩重 | 昭和30年4月17日生 | 平成11年4月 株式会社常陽銀行明野支店支店長 平成18年6月 同行個人事業部部長 平成20年6月 同行下館支店執行役員支店長兼西法人部法人部長 平成23年6月 同行土浦支店執行役員支店長 平成24年6月 当社監査役(現) 平成24年7月 株式会社常陽銀行常務執行役員東京営業部長 平成25年7月 同行常務執行役員営業本部副本部長(現) | (注)1,3 | |
| 計 | | | | | | 61 |

- (注) 1. 監査役 花田 力及び園部浩重は社外監査役であります。
 2. 取締役の任期は、平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
 3. 監査役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、経営の基本方針を実現するため、経営の透明化、コンプライアンス体制の強化を最重要事項として位置づけています。

当社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

イ 取締役会、常勤取締役会及び監査役会

当社の取締役会は平成26年6月25日現在、9名で構成し、会社法の規定に基づき3ヶ月に1回以上の開催により、経営上の重要な意思決定を効率的に行っています。なお、取締役については、常勤取締役に各部門の業務執行を委嘱し、責任所在の明確化を図っています。

また、常勤取締役に委嘱されている業務の執行については、常勤取締役に構成される常勤取締役会（原則週1回開催、常勤監査役も出席）において、各業務の執行に関する審議、報告等を行い、適切な業務執行等を行う体制を整備しています。

当社は、監査役会制度を採用しています。監査役会は平成26年6月25日現在、常勤監査役1名及び非常勤監査役2名、計3名（うち2名社外監査役）で構成され、業務執行等に関する監査体制の強化を図っています。

ロ 企業情報の適時開示

決算、半期業績開示、重要事実の発生時において、ホームページの活用等、迅速な情報開示を行っています。

ハ コンプライアンス体制

当社は、法令及び定款を遵守し、意思決定・業務執行等を行っております。なお、常勤取締役等で構成され、代表取締役社長を委員長とするコンプライアンス・リスク管理委員会（必要に応じて開催、常勤監査役も出席）を設置しております。

ニ グループ経営管理体制

グループ各社の経営計画の管理及び実績評価を行うとともに、主要な会議については当社の常勤取締役、常勤監査役も出席しています。

ホ 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査は、内部統制システムの基本方針に沿って実施しております。

監査役監査は、「監査役監査方針、監査計画書」を監査役会で決定し、各監査役が業務の分担等に従い取締役会、常勤取締役会など主要な会議に出席し、業務執行状況について監査しているほか、当社及び子会社等の実地調査、書類監査等を行っております。また、会計監査の報告を随時求めるなど会計監査人とも緊密な連携を保っております。

ヘ 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は堀切進氏、伊藤孝明氏で、有限責任 あずさ監査法人に所属しています。

このほか、公認会計士5名、その他3名が会計監査業務を補助しています。その他は公認会計士試験合格者、システム監査担当者であります。

ト 社外監査役との関係

当社の社外監査役である花田力は、当社株式の出資比率29.92%を所有する京成電鉄株式会社の取締役であります。利害関係・人的関係はありません。

当社の社外監査役である園部浩重は、株式会社常陽銀行の執行役員であります。利害関係・人的関係はありません。

リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制につきましては、リスクの評価と対応を行う体制として、グループ全体の事業継続に重大な影響を及ぼすリスクを統括するコンプライアンス・リスク管理委員会を設置しております。事故・災害等の防止に向けて、安全管理規程等の遵守の徹底、安全性向上・リスク軽減のための設備投資、保守等を実施しております。また、事故・災害等が発生した場合に迅速に対応するため、災害対策規則等を整備し、訓練を実施しております。今後も安全を第一にリスク管理体制の充実に努めてまいります。

役員報酬の内容

| | |
|--------------|--------|
| 取締役に対する年間報酬額 | 102百万円 |
| 監査役に対する年間報酬額 | 14百万円 |

(注) 上記金額には「役員賞与」が含まれていますが、「株主総会決議に基づく退職慰労金」及び「使用人兼務取締役の使用人給与」は含まれていません。

取締役の定数

当社の取締役は20名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、累積投票によらない旨を定款に定めております。

中間配当の決定機関

当社は、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し会社法第454条第5項に定める剰余金の配当(中間配当)をすることができる旨を定款で定めております。これは株主への利益還元を機動的に行うためであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

| 区分 | 前連結会計年度 | | 当連結会計年度 | |
|-------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|
| | 監査証明業務に基づく報酬(百万円) | 非監査業務に基づく報酬(百万円) | 監査証明業務に基づく報酬(百万円) | 非監査業務に基づく報酬(百万円) |
| 提出会社 | 15 | | 15 | |
| 連結子会社 | | | | |
| 計 | 15 | | 15 | |

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

特段の方針等は設けておりません。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しています。

なお、当連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)第2条の規定に基づき、同規則並びに「鉄道事業会計規則」(昭和62年運輸省令第7号)により作成しています。

なお、当事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任あずさ監査法人により監査を受けています。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3 1,140,247 | 3 1,679,869 |
| 受取手形及び売掛金 | 946,170 | 1,151,818 |
| リース投資資産(純額) | 3 309,795 | 3 411,405 |
| 分譲土地建物 | 3 567,949 | 3 203,322 |
| 商品 | 80,865 | 46,499 |
| 仕掛品 | 18,008 | 9,463 |
| 貯蔵品 | 98,013 | 100,786 |
| 繰延税金資産 | 144,145 | 161,764 |
| その他 | 379,973 | 534,077 |
| 貸倒引当金 | 7,798 | 2,116 |
| 流動資産合計 | 3,677,370 | 4,296,891 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 3 7,514,666 | 3 7,546,926 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 3 2,468,622 | 3 2,364,528 |
| 土地 | 3 7,679,550 | 3 7,922,855 |
| 建設仮勘定 | 10,850 | 33,492 |
| その他(純額) | 3 220,739 | 3 263,200 |
| 有形固定資産合計 | 1, 2 17,894,429 | 1, 2 18,131,003 |
| 無形固定資産 | 221,929 | 183,430 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 3 1,134,503 | 3 1,113,269 |
| 関係会社株式 | 3 1,889,633 | 3 1,686,265 |
| 長期貸付金 | 51,079 | 52,366 |
| 繰延税金資産 | 650,772 | 990,946 |
| その他 | 191,034 | 202,908 |
| 貸倒引当金 | 18,294 | 25,022 |
| 投資その他の資産合計 | 3,898,728 | 4,020,735 |
| 固定資産合計 | 22,015,087 | 22,335,169 |
| 資産合計 | 25,692,458 | 26,632,061 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 504,518 | 541,803 |
| 1年内償還予定の社債 | 400,000 | 100,000 |
| 短期借入金 | 3 5,856,877 | 3 5,427,117 |
| 未払法人税等 | 167,282 | 231,767 |
| リース債務 | 331,667 | 364,674 |
| 賞与引当金 | 297,513 | 292,904 |
| 役員賞与引当金 | 30,300 | 31,080 |
| その他 | 2,067,808 | 2,438,418 |
| 流動負債合計 | 9,655,968 | 9,427,766 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 600,000 | 1,100,000 |
| 長期借入金 | 3 6,667,652 | 3 6,636,059 |
| リース債務 | 1,300,051 | 1,260,829 |
| 繰延税金負債 | 259,586 | 241,091 |
| 退職給付引当金 | 1,655,627 | - |
| 退職給付に係る負債 | - | 2,456,805 |
| 役員退職慰労引当金 | 195,884 | 194,189 |
| その他 | 545,962 | 525,722 |
| 固定負債合計 | 11,224,764 | 12,414,698 |
| 負債合計 | 20,880,732 | 21,842,464 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 510,000 | 510,000 |
| 資本剰余金 | 36,781 | 36,781 |
| 利益剰余金 | 2,772,576 | 3,173,025 |
| 自己株式 | 7,504 | 8,138 |
| 株主資本合計 | 3,311,853 | 3,711,667 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,470,399 | 1,331,310 |
| 退職給付に係る調整累計額 | - | 268,721 |
| その他の包括利益累計額合計 | 1,470,399 | 1,062,588 |
| 少数株主持分 | 29,472 | 15,341 |
| 純資産合計 | 4,811,725 | 4,789,597 |
| 負債純資産合計 | 25,692,458 | 26,632,061 |

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

| | (単位：千円) | |
|----------------|--|--|
| | 前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日) |
| 営業収益 | 15,626,462 | 15,702,052 |
| 営業費 | | |
| 運輸業等営業費及び売上原価 | 2 13,354,854 | 2 13,513,699 |
| 販売費及び一般管理費 | 1, 2 1,676,547 | 1, 2 1,687,378 |
| 営業費合計 | 15,031,401 | 15,201,078 |
| 営業利益 | 595,061 | 500,973 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1,157 | 1,038 |
| 受取配当金 | 24,443 | 26,722 |
| 補助金収入 | 14,824 | - |
| 工事負担金受入額 | 10,300 | - |
| 雑収入 | 64,888 | 61,081 |
| 営業外収益合計 | 115,614 | 88,842 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 226,561 | 186,658 |
| 固定資産圧縮損 | 14,972 | - |
| 貸倒引当金繰入額 | 7,652 | 3,485 |
| 雑支出 | 52,202 | 49,826 |
| 営業外費用合計 | 301,389 | 239,970 |
| 経常利益 | 409,285 | 349,846 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 3 32,884 | 3 88,284 |
| 補助金収入 | 123,968 | 129,991 |
| 受取補償金 | - | 43,200 |
| 受取損害賠償金 | 205,173 | 262,977 |
| 特別利益合計 | 362,026 | 524,453 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | - | 4 40,011 |
| 固定資産圧縮損 | 5 128,235 | 5 132,668 |
| 減損損失 | 6 26,407 | 6 5,733 |
| 解体撤去費用 | - | 28,000 |
| その他 | 22,359 | - |
| 特別損失合計 | 177,001 | 206,413 |
| 税金等調整前当期純利益 | 594,311 | 667,885 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 315,963 | 374,813 |
| 法人税等調整額 | 80,325 | 153,180 |
| 法人税等合計 | 235,638 | 221,632 |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 358,672 | 446,253 |
| 少数株主損失() | 881 | 5,034 |
| 当期純利益 | 359,554 | 451,288 |

【連結包括利益計算書】

| | (単位：千円) | |
|----------------|---|---|
| | 前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日) |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 358,672 | 446,253 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 517,861 | 139,089 |
| 繰延ヘッジ損益 | 2,039 | - |
| その他の包括利益合計 | 1 519,900 | 1 139,089 |
| 包括利益 | 878,573 | 307,164 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る包括利益 | 879,340 | 312,172 |
| 少数株主に係る包括利益 | 767 | 5,008 |

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | |
|-------------------------|---------|--------|-----------|-------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 510,000 | 36,781 | 2,463,875 | 6,927 | 3,003,728 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | 50,852 | | 50,852 |
| 当期純利益 | | | 359,554 | | 359,554 |
| 自己株式の取得 | | | | 577 | 577 |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | | | | | |
| 当期変動額合計 | | | 308,701 | 577 | 308,124 |
| 当期末残高 | 510,000 | 36,781 | 2,772,576 | 7,504 | 3,311,853 |

| | その他の包括利益累計額 | | | 少数株主持分 | 純資産合計 |
|-------------------------|------------------|---------|-------------------|--------|-----------|
| | その他有価証券 評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | その他の包括利益 累計額合計 | | |
| 当期首残高 | 952,538 | 2,039 | 950,499 | 30,300 | 3,984,528 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | 50,852 |
| 当期純利益 | | | | | 359,554 |
| 自己株式の取得 | | | | | 577 |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | 517,861 | 2,039 | 519,900 | 828 | 519,072 |
| 当期変動額合計 | 517,861 | 2,039 | 519,900 | 828 | 827,196 |
| 当期末残高 | 1,470,399 | | 1,470,399 | 29,472 | 4,811,725 |

当連結会計年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | |
|-------------------------|---------|--------|-----------|-------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 510,000 | 36,781 | 2,772,576 | 7,504 | 3,311,853 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | 50,840 | | 50,840 |
| 当期純利益 | | | 451,288 | | 451,288 |
| 自己株式の取得 | | | | 634 | 634 |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | 400,448 | 634 | 399,814 |
| 当期末残高 | 510,000 | 36,781 | 3,173,025 | 8,138 | 3,711,667 |

| | その他の包括利益累計額 | | | 少数株主持分 | 純資産合計 |
|-------------------------|------------------|------------------|-------------------|--------|-----------|
| | その他有価証券 評価差額金 | 退職給付に係る 調整累計額 | その他の包括利益 累計額合計 | | |
| 当期首残高 | 1,470,399 | | 1,470,399 | 29,472 | 4,811,725 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | 50,840 |
| 当期純利益 | | | | | 451,288 |
| 自己株式の取得 | | | | | 634 |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | 139,089 | 268,721 | 407,810 | 14,131 | 421,942 |
| 当期変動額合計 | 139,089 | 268,721 | 407,810 | 14,131 | 22,128 |
| 当期末残高 | 1,331,310 | 268,721 | 1,062,588 | 15,341 | 4,789,597 |

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|-------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前当期純利益 | 594,311 | 667,885 |
| 減価償却費 | 1,046,489 | 1,151,595 |
| 減損損失 | 26,407 | 5,733 |
| 受取補償金 | - | 43,200 |
| 賞与引当金の増減額(は減少) | 9,049 | 4,608 |
| 役員賞与引当金の増減額(は減少) | 1,160 | 780 |
| 退職給付引当金の増減額(は減少) | 243,067 | - |
| 退職給付に係る負債の増減額(は減少) | - | 385,329 |
| 貸倒引当金の増減額(は減少) | 7,081 | 1,044 |
| 役員退職慰労引当金の増減額(は減少) | 18,363 | 1,695 |
| 受取利息及び受取配当金 | 25,600 | 27,760 |
| 支払利息 | 226,561 | 186,658 |
| 投資有価証券売却損益(は益) | 1,043 | - |
| 有形固定資産売却損益(は益) | 11,585 | 83,326 |
| 有形固定資産除却損 | 13,463 | 45,659 |
| 固定資産圧縮損 | 143,208 | 132,668 |
| 無形固定資産除却損 | - | 198 |
| 工事負担金等受入額 | 10,300 | - |
| 補助金収入 | 138,793 | 129,991 |
| 受取損害賠償金 | 205,173 | 262,977 |
| 解体撤去費用 | - | 28,000 |
| 売上債権の増減額(は増加) | 20,047 | 205,648 |
| リース投資資産の増減額(は増加) | 309,795 | 101,609 |
| たな卸資産の増減額(は増加) | 74,263 | 151,132 |
| 仕入債務の増減額(は減少) | 124,836 | 37,284 |
| 前受金の増減額(は減少) | 6,174 | 157,940 |
| その他の流動資産の増減額(は増加) | 49,225 | 35,403 |
| 未払消費税等の増減額(は減少) | 105,475 | 31,561 |
| 未収入金の増減額(は増加) | 19,013 | 186,967 |
| 未払金の増減額(は減少) | 290,392 | 80,286 |
| その他 | 79,786 | 91,176 |
| 小計 | 1,988,143 | 2,142,551 |
| 利息及び配当金の受取額 | 25,609 | 27,762 |
| 利息の支払額 | 223,274 | 191,846 |
| 法人税等の支払額 | 379,076 | 310,203 |
| 移転補償金の受取額 | - | 43,200 |
| 損害賠償金の受取額 | 205,173 | 262,977 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,616,575 | 1,974,442 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|-------------------------|--|--|
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | 88,370 | 98,669 |
| 定期預金の払戻による収入 | 102,863 | 81,163 |
| 有形固定資産の取得による支出 | 565,801 | 862,333 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 56,662 | 140,765 |
| 無形固定資産の取得による支出 | 90,629 | 23,060 |
| 投資有価証券の取得による支出 | 676 | 682 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 1,093 | - |
| 投資有価証券の償還による収入 | - | 9,998 |
| 短期貸付けによる支出 | 330 | 1,621 |
| 短期貸付金の回収による収入 | 4,339 | 4,667 |
| 長期貸付けによる支出 | 1,427 | 8,319 |
| 長期貸付金の回収による収入 | 3,740 | 2,897 |
| その他投資活動によるキャッシュ・フロー | - | 2,450 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 578,534 | 757,644 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入れによる収入 | 7,102,500 | 5,129,000 |
| 短期借入金の返済による支出 | 7,646,164 | 5,635,500 |
| 長期借入れによる収入 | 3,292,000 | 3,334,800 |
| 長期借入金の返済による支出 | 3,007,449 | 3,289,653 |
| リース債務の返済による支出 | 296,509 | 355,596 |
| 社債の発行による収入 | 491,210 | 582,295 |
| 社債の償還による支出 | 800,000 | 400,000 |
| 自己株式の取得による支出 | 577 | 634 |
| 配当金の支払額 | 50,236 | 50,325 |
| 少数株主への配当金の支払額 | 55 | 55 |
| 少数株主への清算配当金の支払額 | - | 9,013 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 915,280 | 694,682 |
| 現金及び現金同等物の増減額（は減少） | 122,759 | 522,115 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 910,304 | 1,033,063 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1 1,033,063 | 1 1,555,179 |

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 14社

主要な連結子会社は、「第1企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略しています。

(2) 連結の範囲の変更

当連結会計年度において、(株)はやぶさは、解散・清算いたしましたので、連結の範囲から除外しています。

2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は2月末日です。

なお、連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用しています。ただし、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っています。

3. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(ロ) たな卸資産

分譲土地建物は個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法)により評価しています。

小売業商品、仕掛品及び貯蔵品は先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法)により評価しています。

(ハ) デリバティブ

時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産(リース資産を除く)

鉄道事業の取替資産については取替法、車両については定率法、それ以外の資産については定額法を採用しています。鉄道事業以外の資産については定率法(ただし、建物については定額法)を採用しています。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物及び構築物 5～60年

機械装置及び運搬具 5～17年

(ロ) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しています。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいています。

(ハ) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

(3) 繰延資産の処理方法

(イ) 社債発行費

支出時に全額費用として処理しています。

(4) 重要な引当金の計上基準

(イ) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

(ロ) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、過去の支給実績を勘案し、当連結会計年度の負担すべき支給見込額を計上しています。

(ハ) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、当連結会計年度の負担すべき支給見込額を計上しています。

(ニ) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しています。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

(イ) 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

(ロ) 数理計算上の差異及び会計基準変更時差異の費用処理方法

会計基準変更時差異については、15年による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(6) 重要な収益及び費用の計上基準

(イ) 工事負担金等の処理方法

鉄道事業及び自動車事業における施設、設備等の新設又は更新に当たり、地方公共団体(又は国土交通省)等より工事費の一部として工事負担金等を受け入れています。これらの工事負担金等は、工事完成時に当該工事負担金相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しています。ただし、施設、設備等が新設のものであり、かつ、当社の収益獲得に直接寄与すると認められる場合30,000千円以上の工事負担金相当額は直接減額せず固定資産に計上することとしています。工事負担金相当額を直接減額する場合、損益計算書においては、工事負担金等受入額を特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減額した額を固定資産圧縮損として特別損失に計上しています。

(ロ) 借入金利息の原価算入

分譲土地の取得に係る借入金利息を一定の計算基準により原価に算入することとしています。

なお、当連結会計年度において対象工事がないため取得価額に算入した額はありません。

(ハ) ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

(イ) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。

(ロ) ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段) (ヘッジ対象)

金利スワップ 借入金の利息

(ハ) ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

(ニ) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジ有効性を評価しています。ただし、特例処理によっている金利スワップについては、金利の変動に伴うキャッシュ・フローの変動を完全に相殺するものと想定されるため、有効性の評価を省略しています。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっています。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

(イ) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方法によっています。ただし、資産に係る控除対象外消費税は発生事業年度の期間費用としています。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度末より、「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を適用しております。(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)

これらの会計基準等の適用により、未認識数理計算上の差異及び未認識会計基準変更時差異を退職給付に係る負債に計上いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な扱いに従っており、当連結会計年度において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減してあります。

この結果、当連結会計年度末の固定負債が415,849千円増加、その他の包括利益累計額が268,721千円減少し、繰延税金資産が147,127千円増加しております。

なお、1株当たり純資産額は2.64円減少しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首より適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

当該会計基準等を適用することにより、翌連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ13,902千円増加する予定です。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりです。

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 有形固定資産減価償却累計額 | 21,141,770千円 | 21,775,572千円 |

2 有形固定資産の取得価額から控除した工事負担金等の受入れによる圧縮記帳累計額は次のとおりです。

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日) |
|---------------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 有形固定資産の取得価額から控除した工事負担金等の受入れによる圧縮記帳累計額 | 9,054,355千円 | 9,890,649千円 |

3 担保資産及び担保付債務

(イ) 財団

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日) |
|-----------|-------------------------|-------------------------|
| 建物及び構築物 | 3,983,828千円 | 4,005,836千円 |
| 機械装置及び運搬具 | 688,952 | 592,700 |
| 土地 | 2,055,063 | 2,053,897 |
| 有形固定資産その他 | 78,202 | 140,145 |
| 計 | 6,806,046千円 | 6,792,580千円 |

上記資産を下記の債務の担保に供しています。

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日) |
|----------------|-------------------------|-------------------------|
| (1年内返済予定額含む) | | |
| 長期借入金(財団抵当借入金) | 4,216,460千円 | 3,959,830千円 |

(ロ) その他

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日) |
|---------|-------------------------|-------------------------|
| 現金及び預金 | 40,000千円 | 40,000千円 |
| リース投資資産 | 97,000 | 201,361 |
| 分譲土地建物 | 299,918 | 46,285 |
| 建物及び構築物 | 833,443 | 809,254 |
| 土地 | 2,752,375 | 3,136,820 |
| 投資有価証券 | 526,688 | 527,752 |
| 関係会社株式 | 551,650 | 572,530 |
| 計 | 5,101,075千円 | 5,334,004千円 |

上記資産を下記の債務の担保に供しています。

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日) |
|-------|-------------------------|-------------------------|
| 短期借入金 | 2,058,270千円 | 1,644,138千円 |
| 長期借入金 | 3,991,207 | 4,280,777 |
| 計 | 6,049,478千円 | 5,924,916千円 |

(追加情報)

当連結会計年度において、保有目的の変更に伴い、たな卸資産253,633千円を土地に振替えております。

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主な内訳は次のとおりです。

| | 前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|-------|--|--|
| 人件費 | 1,019,577千円 | 1,044,560千円 |
| 経費 | 281,070 | 280,472 |
| 諸税 | 128,357 | 123,805 |
| 減価償却費 | 247,542 | 238,539 |
| 計 | 1,676,547千円 | 1,687,378千円 |

2 引当金繰入額は次のとおりです。

| | 前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|-----------|--|--|
| 賞与引当金 | 297,513千円 | 292,904千円 |
| 役員賞与引当金 | 30,300 | 18,755 |
| 役員退職慰労引当金 | 41,925 | 44,251 |
| 退職給付費用 | 535,771 | 567,828 |

3 固定資産売却益は次のとおりです。

| | 前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|----|--|--|
| 土地 | 32,884千円 | 88,284千円 |

4 固定資産除却損は次のとおりです。

| | 前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|---------|--|--|
| 建物及び構築物 | - 千円 | 40,011千円 |

5 固定資産圧縮損は次のとおりです。

| | 前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|-----------|--|--|
| 建物及び構築物 | 25,605千円 | 43,195千円 |
| 機械装置及び運搬具 | 98,363 | 87,846 |
| 土地 | 4,266 | 1,627 |
| 計 | 128,235千円 | 132,668千円 |

6 減損損失

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

当社グループは、以下の資産について、減損損失を計上しました。

| 用途 | 種類 | 場所 | 金額 |
|--------|----|--------------|--------|
| 賃貸用不動産 | 土地 | 茨城県東茨城郡茨城町奥谷 | 20,284 |
| 賃貸用不動産 | 土地 | 茨城県東茨城郡茨城町大戸 | 6,122 |
| 計 | | | 26,407 |

(資産のグルーピングの方法)

原則として、事業用資産については、事業部別を基準としてグルーピングを行っており、連結子会社については、各事業会社を最小単位としてグルーピングを行っています。

また、賃貸用不動産及び遊休資産については、個別の物件を単位として判定しています。

(減損損失を認識するに至った経緯)

上記の賃貸用不動産については、関東鉄道(株)が貸事務所及び駐車場として所有していますが、収益性の低下により投資額の回収が困難と見込まれるため、減損損失を認識しました。

(回収可能価額の算定方法等)

遊休資産については正味売却価額により測定しており、固定資産税評価額等に合理的な調整を行って算出した金額等を使用しています。また、賃貸用不動産については、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを1.8%で割り引いて算定しています。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当社グループは、以下の資産について、減損損失を計上しました。

| 用途 | 種類 | 場所 | 金額 |
|-------|---------|-----------------------|-------|
| タクシー業 | 有形固定資産等 | 関鉄土浦タクシー(株) (茨城県土浦市等) | 5,733 |

(資産のグルーピングの方法)

原則として、事業用資産については、事業部別を基準としてグルーピングを行っており、連結子会社については、各事業会社を最小単位としてグルーピングを行っています。

また、賃貸用不動産及び遊休資産については、個別の物件を単位として判定しています。

(減損損失を認識するに至った経緯)

関鉄土浦タクシー(株)については、営業活動から生じる損益が継続してマイナスである資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しました。

(回収可能価額の算定方法等)

遊休資産については正味売却価額により測定しており、固定資産税評価額等に合理的な調整を行って算出した金額等を使用しています。また、賃貸用不動産については、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを1.8%で割り引いて算定しています。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

| | 前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|--------------|--|--|
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 当期発生額 | 801,453千円 | 215,241千円 |
| 組替調整額 | | |
| 税効果調整前 | 801,453千円 | 215,241千円 |
| 税効果額 | 283,592 " | 76,152 " |
| その他有価証券評価差額金 | 517,861千円 | 139,089千円 |
| 繰延ヘッジ損益 | | |
| 当期発生額 | | |
| 組替調整額 | 3,312千円 | |
| 税効果調整前 | 3,312千円 | |
| 税効果額 | 1,273 " | |
| 繰延ヘッジ損益 | 2,039千円 | |
| その他の包括利益合計 | 519,900千円 | 139,089千円 |

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 当連結会計年度期首 株式数(千株) | 当連結会計年度増加 株式数(千株) | 当連結会計年度減少 株式数(千株) | 当連結会計年度末 株式数(千株) |
|---------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 10,200 | | | 10,200 |
| 合計 | 10,200 | | | 10,200 |
| 自己株式 | | | | |
| 普通株式(注) | 29 | 2 | | 31 |
| 合計 | 29 | 2 | | 31 |

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加2千株は、単元未満株式の買取りによる増加です。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成24年6月25日 定時株主総会 | 普通株式 | 50,852 | 5 | 平成24年3月31日 | 平成24年6月26日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| (決議) | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成25年6月25日 定時株主総会 | 普通株式 | 利益剰余金 | 50,840 | 5 | 平成25年3月31日 | 平成25年6月26日 |

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 当連結会計年度期首 株式数(千株) | 当連結会計年度増加 株式数(千株) | 当連結会計年度減少 株式数(千株) | 当連結会計年度末 株式数(千株) |
|---------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 10,200 | | | 10,200 |
| 合計 | 10,200 | | | 10,200 |
| 自己株式 | | | | |
| 普通株式(注) | 31 | 2 | | 34 |
| 合計 | 31 | 2 | | 34 |

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加2千株は、単元未満株式の買取りによる増加です。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成25年6月25日 定時株主総会 | 普通株式 | 50,840 | 5 | 平成25年3月31日 | 平成25年6月26日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| (決議) | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成26年6月25日 定時株主総会 | 普通株式 | 利益剰余金 | 50,826 | 5 | 平成26年3月31日 | 平成26年6月26日 |

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

| | 前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|------------------|--|--|
| 現金及び預金 | 1,140,247千円 | 1,679,869千円 |
| 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 | 107,184 | 124,690 |
| 現金及び現金同等物 | 1,033,063千円 | 1,555,179千円 |

2. 重要な非資金取引の内容

(前連結会計年度)

当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び負債の額は、それぞれ554,839千円及び581,636千円です。

(当連結会計年度)

当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び負債の額は、それぞれ328,948千円及び349,381千円です。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

・有形固定資産

主として、自動車事業における洗車機及び車両(機械装置及び運搬具)であります。

・無形固定資産

主として、鉄道事業におけるP A S M Oネットワークシステムであります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前連結会計年度(平成25年3月31日現在)

| | 取得価額相当額 | 減価償却累計額相当額 | 期末残高相当額 |
|-----------|-------------|-------------|-----------|
| 機械装置及び運搬具 | 1,171,770千円 | 1,000,151千円 | 171,618千円 |
| 有形固定資産その他 | 44,510 | 44,510 | |
| 無形固定資産 | 23,508 | 23,508 | |
| 合計 | 1,239,789千円 | 1,068,170千円 | 171,618千円 |

当連結会計年度(平成26年3月31日現在)

| | 取得価額相当額 | 減価償却累計額相当額 | 期末残高相当額 |
|-----------|-----------|------------|----------|
| 機械装置及び運搬具 | 714,409千円 | 624,887千円 | 89,522千円 |
| 合計 | 714,409千円 | 624,887千円 | 89,522千円 |

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しています。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日現在) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日現在) |
|-----|---------------------------|---------------------------|
| 1年内 | 82,096千円 | 62,776千円 |
| 1年超 | 89,522 | 26,745 |
| 合計 | 171,618千円 | 89,522千円 |

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しています。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

| | 前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日) |
|----------|--|--|
| 支払リース料 | 147,839千円 | 80,716千円 |
| 減価償却費相当額 | 147,839 | 80,716 |

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

(5) 減損損失について

リース資産に配分された減損損失はありません。

(貸主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース投資資産の内訳

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日) |
|----------|-------------------------|-------------------------|
| リース料債権部分 | 737,290千円 | 977,030千円 |
| 見積残存価額部分 | | |
| 受取利息相当額 | 427,495千円 | 565,625千円 |
| リース投資資産 | 309,795千円 | 411,405千円 |

(2) リース投資資産に係るリース料債権部分の連結決算日後の回収予定額

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | | | | | |
|---------|-------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------|
| | 1年以内 | 1年超 2年以内 | 2年超 3年以内 | 3年超 4年以内 | 4年超 5年以内 | 5年超 |
| リース投資資産 | 28,920 | 30,090 | 30,090 | 30,090 | 30,090 | 588,007 |

(単位：千円)

| | 当連結会計年度 (平成26年3月31日) | | | | | |
|---------|-------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------|
| | 1年以内 | 1年超 2年以内 | 2年超 3年以内 | 3年超 4年以内 | 4年超 5年以内 | 5年超 |
| リース投資資産 | 39,015 | 40,290 | 40,290 | 40,290 | 40,290 | 776,852 |

2. オペレーティング・リース取引

(貸主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日現在) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日現在) |
|-----|---------------------------|---------------------------|
| 1年内 | 19,714千円 | 19,714千円 |
| 1年超 | 19,714 | |
| 合計 | 39,428千円 | 19,714千円 |

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは主に運輸事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達しています。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しています。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び取引先企業との業務に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されています。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日です。借入金及び社債は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還期限は決算日後、最長で14年です。このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されていますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしています。

デリバティブ取引は、借入金の金利変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）

当社は金銭事務取扱規程に従い、営業債権及び長期貸付金について、各事業部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手毎に期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っています。連結子会社についても、当社の金銭事務取扱規程に準じて、同様の管理を行っています。

市場リスク（金利等の変動リスク）

当社及び一部の連結子会社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを回避するために、金利スワップ取引を利用しています。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しています。

デリバティブ取引については、取引権限や限度額を定めたデリバティブ取引社内内規に基づき、常勤取締役会で基本方針を決定し、取締役会で具体的な取引契約を承認し、経理部が記帳及び契約先と残高照合等を行っています。連結子会社についても、当社のデリバティブ取引社内内規に準じて、管理を行っています。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新することにより、流動性リスクを管理しています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めていません（（ 1 ）を参照ください。）。

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

| | 連結貸借対照表計上額 | 時価 | 差額 |
|---------------------------|------------|------------|---------|
| (1) 現金及び預金 | 1,140,247 | 1,140,247 | |
| (2) 受取手形及び売掛金 | 938,371 | 938,371 | |
| (3) 投資有価証券 其他有価証券（ 1 ） | 1,027,256 | 1,027,256 | |
| (4) 関係会社株式 | 1,889,633 | 1,889,633 | |
| 資産計 | 4,995,509 | 4,995,509 | |
| (5) 支払手形及び買掛金 | 504,518 | 504,518 | |
| (6) 短期借入金（ 2 ） | 2,777,000 | 2,777,000 | |
| (7) 社債 | 1,000,000 | 969,358 | 30,642 |
| (8) 長期借入金（ 2 ） | 9,747,529 | 9,521,749 | 225,780 |
| 負債計 | 14,029,047 | 13,772,625 | 256,422 |

（ 1 ） 非上場株式等（連結貸借対照表計上額107,246千円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券 其他有価証券」には含めていません。

（ 2 ） 1年以内に返済予定の長期借入金は、連結貸借対照表上、短期借入金に含めて表示しています。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

| | 連結貸借対照表計上額 | 時価 | 差額 |
|----------------------------|------------|------------|---------|
| (1) 現金及び預金 | 1,679,869 | 1,679,869 | |
| (2) 受取手形及び売掛金 | 1,149,702 | 1,149,702 | |
| (3) 投資有価証券 その他有価証券(1) | 1,016,020 | 1,016,020 | |
| (4) 関係会社株式 | 1,686,265 | 1,686,265 | |
| 資産計 | 5,531,858 | 5,531,858 | |
| (5) 支払手形及び買掛金 | 541,803 | 541,803 | |
| (6) 短期借入金(2) | 2,270,500 | 2,270,500 | |
| (7) 社債 | 1,200,000 | 1,183,571 | 16,429 |
| (8) 長期借入金(2) | 9,792,676 | 9,687,492 | 105,184 |
| 負債計 | 13,804,979 | 13,683,366 | 121,613 |

- (1) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額 97,249千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券 その他有価証券」には含めていません。
- (2) 1年以内に返済予定の長期借入金は、連結貸借対照表上、短期借入金に含めて表示しています。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済される性格のものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいと言えることから、当該帳簿価額によっています。なお、受取手形及び売掛金については、信用リスクを個別に把握することが極めて困難なため、貸倒引当金を信用リスクとみなし、時価を算定しています。

(3) 投資有価証券、(4) 関係会社株式

これらの時価について、株式は取引所の価格によっています。

(5) 支払手形及び買掛金、(6) 短期借入金

これらは、短期間で決済される性格のものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいと言えることから、当該帳簿価額によっています。

(7) 社債

社債の時価については、元利金の合計額を同様の新規社債発行を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっています。

(8) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっています。但し、変動金利による長期借入金については、金利が一定期間毎に更改される条件となっているため、時価は帳簿価額にほぼ等しいと言えることから、当該帳簿価額によっています。

(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位:千円)

| | 1年以内 | 1年超 5年以内 | 5年超 10年以内 | 10年超 |
|-------------------------|-----------|-------------|--------------|------|
| 現金及び預金 | 1,140,247 | | | |
| 受取手形及び売掛金 | 938,371 | | | |
| 投資有価証券 | | | | |
| その他有価証券のうち満期があるもの(MMF等) | 10,860 | | | |
| 合計 | 2,089,480 | | | |

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位:千円)

| | 1年以内 | 1年超 5年以内 | 5年超 10年以内 | 10年超 |
|-------------------------|-----------|-------------|--------------|------|
| 現金及び預金 | 1,679,869 | | | |
| 受取手形及び売掛金 | 1,151,818 | | | |
| 投資有価証券 | | | | |
| その他有価証券のうち満期があるもの(MMF等) | 863 | | | |
| 合計 | 2,832,550 | | | |

(注3) 社債、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位:千円)

| | 1年以内 | 1年超 2年以内 | 2年超 3年以内 | 3年超 4年以内 | 4年超 5年以内 | 5年超 |
|-------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------|
| 短期借入金 | 2,777,000 | | | | | |
| 社債 | 400,000 | 100,000 | | | 500,000 | |
| 長期借入金 | 3,079,877 | 2,521,146 | 1,787,065 | 1,142,710 | 577,812 | 638,919 |
| 合計 | 6,256,877 | 2,621,146 | 1,787,065 | 1,142,710 | 1,077,812 | 638,919 |

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位:千円)

| | 1年以内 | 1年超 2年以内 | 2年超 3年以内 | 3年超 4年以内 | 4年超 5年以内 | 5年超 |
|-------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------|
| 短期借入金 | 2,270,500 | | | | | |
| 社債 | 100,000 | | | 500,000 | 600,000 | |
| 長期借入金 | 3,156,617 | 2,447,849 | 1,777,767 | 1,166,534 | 622,286 | 621,623 |
| 合計 | 5,527,117 | 2,447,849 | 1,777,767 | 1,666,534 | 1,222,286 | 621,623 |

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成25年3月31日現在)

1. その他有価証券

(単位：千円)

| | 区分 | 連結貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|------------------------|-----------|------------|---------|-----------|
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | 株式 | 2,916,889 | 639,625 | 2,277,264 |
| | 債券 その他 | | | |
| | 小計 | 2,916,889 | 639,625 | 2,277,264 |
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | 株式 | | | |
| | 債券 その他 | | | |
| | 小計 | | | |
| | 合計 | 2,916,889 | 639,625 | 2,277,264 |

(注) 1 非上場株式等(連結貸借対照表計上額107,246千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表の「その他有価証券」には含めていません。

当連結会計年度(平成26年3月31日現在)

1. その他有価証券

(単位：千円)

| | 区分 | 連結貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|------------------------|-----------|------------|---------|-----------|
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | 株式 | 2,702,285 | 823,994 | 1,878,291 |
| | 債券 その他 | | | |
| | 小計 | 2,702,285 | 823,994 | 1,878,291 |
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | 株式 | | | |
| | 債券 その他 | | | |
| | 小計 | | | |
| | 合計 | 2,702,285 | 823,994 | 1,878,291 |

(注) 1 非上場株式等(連結貸借対照表計上額 97,249千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表の「その他有価証券」には含めていません。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(平成25年3月31日現在)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(単位：千円)

| ヘッジ会計の方法 | デリバティブ取引の種類等 | 主なヘッジ対象 | 契約額等 | 契約額のうち1年超 | 時価 |
|-------------|-----------------------|---------|--------|-----------|------|
| 金利スワップの特例処理 | 金利スワップ取引 固定支払・変動受取 | 長期借入金 | 88,750 | 43,750 | (注)2 |

(注)1 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しています。

2 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しています。

当連結会計年度(平成26年3月31日現在)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(単位：千円)

| ヘッジ会計の方法 | デリバティブ取引の種類等 | 主なヘッジ対象 | 契約額等 | 契約額のうち1年超 | 時価 |
|-------------|-----------------------|---------|---------|-----------|------|
| 金利スワップの特例処理 | 金利スワップ取引 固定支払・変動受取 | 長期借入金 | 543,750 | 418,750 | (注)2 |

(注)1 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しています。

2 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しています。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、退職一時金制度を設けています。

2. 退職給付債務に関する事項

(単位：千円)

| | |
|--------------------|-----------|
| (1) 退職給付債務 | 2,472,314 |
| (内訳) | |
| (2) 会計基準変更時差異の未処理額 | 758,028 |
| (3) 未認識数理計算上の差異 | 58,658 |
| (4) 退職給付引当金 | 1,655,627 |

(注) 子会社は退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しています。

3. 退職給付費用に関する事項

(単位：千円)

| | |
|---------------------|---------|
| (1) 勤務費用 | 124,721 |
| (2) 利息費用 | 44,803 |
| (3) 会計基準変更時差異の費用処理額 | 380,695 |
| (4) 数理計算上の差異の費用処理額 | 14,448 |
| (5) 退職給付費用 | 535,771 |

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

- (1) 退職給付見込額の期間配分方式
 期間定額基準
- (2) 割引率
 2.0%
- (3) 会計基準変更時差異の処理年数
 15年
- (4) 数理計算上の差異の処理年数
 5年(定額法により、それぞれの発生の翌連結会計年度から費用処理する方法)

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、退職一時金制度を設けています。
 なお、一部の連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

| | | |
|--------------------|------------------|----------|
| 退職給付債務の期首残高 | 2,472,314 | 千円 |
| 勤務費用 | 136,664 | " |
| 利息費用 | 46,356 | " |
| 数理計算上の差異の発生額 | 14,211 | " |
| 退職給付の支払額 | 182,498 | " |
| その他 | 1,818 | " |
| 退職給付債務の期末残高 | 2,456,805 | " |

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

| | | |
|------------------------------|------------------|----------|
| 非積立型制度の退職給付債務 | 2,456,805 | " |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 2,456,805 | " |
| 退職給付に係る負債 | 2,456,805 | 千円 |
| 連結貸借対照表に計上された負債の純額 | 2,456,805 | " |

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

| | | |
|------------------------|----------------|----------|
| 勤務費用 | 136,664 | 千円 |
| 利息費用 | 46,356 | " |
| 数理計算上の差異の費用処理額 | 4,514 | " |
| 会計基準変更時差異の費用処理額 | 380,293 | " |
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 567,828 | " |

(4) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

| | | |
|--------------|----------------|----------|
| 未認識数理計算上の差異 | 39,932 | " |
| 未認識会計基準変更時差異 | 375,917 | " |
| 合計 | 415,849 | " |

(5) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表している。)

| | |
|-----|------|
| 割引率 | 2.0% |
|-----|------|

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日現在) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日現在) |
|----------------|---------------------------|---------------------------|
| 繰延税金資産 | | |
| 退職給付引当金 | 471,721千円 | 千円 |
| 退職給付に係る負債 | | 847,990 |
| 賞与引当金 | 104,227 | 97,384 |
| 役員退職慰労引当金 | 38,304 | 65,551 |
| 未実現利益の消去 | 620,952 | 620,186 |
| 連結子会社の繰越欠損金 | 122,282 | 72,326 |
| 減損損失 | 42,670 | 44,699 |
| その他 | 44,765 | 71,037 |
| 繰延税金資産小計 | 1,444,926千円 | 1,819,177千円 |
| 評価性引当額 | 170,988 | 123,790 |
| 繰延税金資産合計 | 1,273,937千円 | 1,695,386千円 |
| 繰延税金負債 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 591,200 | 729,528 |
| 連結修正による圧縮記帳の調整 | 147,406 | 54,239 |
| その他 | 142 | 151 |
| 繰延税金負債合計 | 738,749千円 | 783,919千円 |
| 繰延税金資産の純額 | 535,188千円 | 911,467千円 |

(注) 繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれています。

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日現在) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日現在) |
|---------------|---------------------------|---------------------------|
| 流動資産 - 繰延税金資産 | 144,145千円 | 161,764千円 |
| 固定資産 - 繰延税金資産 | 650,772 | 990,946 |
| 流動負債 - その他 | 142 | 151 |
| 固定負債 - 繰延税金負債 | 259,586 | 241,091 |

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との、差異の原因となった主な項目別の内訳

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日現在) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日現在) |
|------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 法定実効税率 | 37.8% | 37.8% |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 1.9 | 1.4 |
| 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | 3.0 | 2.6 |
| 住民税均等割 | 1.6 | 1.4 |
| 税務上の繰越欠損金 | 8.2 | 6.7 |
| 連結消去された受取配当金 | 2.7 | 2.4 |
| 評価性引当額の増減 | 2.2 | 0.4 |
| 役員賞与引当金等永久に損金に算入されない項目 | 1.9 | 1.7 |
| 税率変更による期末繰延税金資産の減額修正 | 2.3 | 2.4 |
| 収用等の特別控除 | | 4.6 |
| その他 | 0.4 | 0.4 |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 39.6% | 33.2% |

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成26年法律第10号）が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課せられないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については従来の37.75%から35.38%となります。その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が15,790千円減少すると共に、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が15,790千円増加しております。

(賃貸等不動産関係)

当社グループでは、茨城県において、賃貸用のオフィスビル、商業施設及び駐車場等を有しています。

平成25年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は380,669千円（賃貸収益は「営業収益」に、主な賃貸費用は「運輸業等営業費」及び「販売費及び一般管理費」に計上）、減損損失は26,407千円（「特別損失」に計上）です。

平成26年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は375,051千円（賃貸収益は「営業収益」に、主な賃貸費用は「運輸業等営業費」及び「販売費及び一般管理費」に計上）、減損損失は2,757千円（「特別損失」に計上）です。

また、賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は以下のとおりです。

(単位：千円)

| | | 前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|------------|-------|--|--|
| 連結貸借対照表計上額 | 期首残高 | 8,565,165 | 8,312,479 |
| | 期中増減額 | 252,685 | 141,996 |
| | 期末残高 | 8,312,479 | 8,454,475 |
| 期末時価 | | 8,422,665 | 8,499,697 |

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額です。
 2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な減少は、減価償却費205,375千円、減損損失26,407千円です。当連結会計年度の主な増加は、保有目的変更により253,633千円を販売用不動産から振替えたものであり、減少は、減価償却費117,719千円です。
 3 時価の算定方法
 期末の時価は、不動産鑑定士による評価額及び一定の評価額並びに適切に市場価格を反映していると考えられる指標等を用いて調整した金額です。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1) セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、当社の取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

(2) 各セグメントに属する製品及びサービスの種類

当社グループは、サービス別のセグメントから構成されており、「運輸業」「不動産業」「流通業」「レジャー・サービス業」「自動車車両整備業」の5つを報告セグメントとしています。

「運輸業」は鉄道、バス、タクシーの営業を行っています。「不動産業」は建物の賃貸、土地及び建物の販売等を行っています。「流通業」は各種商品及びタイヤ、砕石等の販売を行っています。「レジャー・サービス業」はコンピューター業、ゴルフ練習場業、旅行業を行っています。「自動車車両整備業」は自動車車両整備業を行っています。

2 報告セグメントのごとの営業収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいています。

3 報告セグメントのごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | | 合計 | 調整額 (注1) | 連結財務諸 表計上額 (注2) |
|----------------------------|------------|-----------|---------|----------------|--------------|------------|-------------|-----------------------|
| | 運輸業 | 不動産業 | 流通業 | レジャー・ サービス業 | 自動車車両 整備業 | | | |
| 営業収益 | | | | | | | | |
| 外部顧客に対する 営業収益 | 11,462,097 | 1,031,131 | 495,217 | 2,274,598 | 363,418 | 15,626,462 | | 15,626,462 |
| セグメント間の 内部営業収益又は 振替高 | 15,567 | 61,933 | 81,107 | 154,487 | 168,005 | 481,101 | 481,101 | |
| 計 | 11,477,665 | 1,093,065 | 576,324 | 2,429,086 | 531,423 | 16,107,564 | 481,101 | 15,626,462 |
| セグメント利益 | 54,045 | 399,158 | 8,330 | 93,616 | 39,987 | 595,138 | 77 | 595,061 |
| セグメント資産 | 15,825,366 | 9,759,734 | 474,154 | 1,276,154 | 720,589 | 28,055,999 | 2,363,541 | 25,692,458 |
| セグメント負債 | 18,081,001 | 2,401,819 | 242,596 | 621,866 | 86,660 | 21,433,944 | 553,211 | 20,880,732 |
| その他の項目 | | | | | | | | |
| 減価償却費 | 795,034 | 214,433 | 3,191 | 22,443 | 11,386 | 1,046,489 | | 1,046,489 |
| 減損損失 | | 26,407 | | | | 26,407 | | 26,407 |
| 有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額 | 1,332,401 | 23,360 | 2,650 | | 2,100 | 1,360,511 | | 1,360,511 |

(注1) 調整額は以下のとおりです。

- (1) セグメント利益の調整額 77千円はセグメント間取引消去です。
 (2) セグメント資産の調整額 2,363,541千円はセグメント間取引消去です。
 (3) セグメント負債の調整額 553,211千円はセグメント間取引消去です。

(注2) セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しています。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | | 合計 | 調整額 (注1) | 連結財務諸 表計上額 (注2) |
|----------------------------|------------|------------|---------|----------------|--------------|------------|-------------|-----------------------|
| | 運輸業 | 不動産業 | 流通業 | レジャー・ サービス業 | 自動車車両 整備業 | | | |
| 営業収益 | | | | | | | | |
| 外部顧客に対す る営業収益 | 11,493,620 | 1,004,441 | 544,742 | 2,312,867 | 346,380 | 15,702,052 | | 15,702,052 |
| セグメント間の 内部営業収益又 は振替高 | 13,169 | 61,446 | 99,082 | 152,183 | 187,256 | 513,138 | 513,138 | |
| 計 | 11,506,789 | 1,065,888 | 643,825 | 2,465,051 | 533,637 | 16,215,191 | 513,138 | 15,702,052 |
| セグメント利益 又は損失() | 1,453 | 381,562 | 15,141 | 80,017 | 43,698 | 518,967 | 17,993 | 500,973 |
| セグメント資産 | 16,117,156 | 10,136,156 | 529,203 | 1,272,986 | 734,652 | 28,790,155 | 2,158,094 | 26,632,061 |
| セグメント負債 | 17,050,274 | 4,030,346 | 262,255 | 536,837 | 80,003 | 21,959,716 | 117,252 | 21,842,464 |
| その他の項目 | | | | | | | | |
| 減価償却費 | 913,597 | 204,837 | 3,942 | 16,456 | 12,761 | 1,151,595 | | 1,151,595 |
| 減損損失 | 5,733 | | | | | 5,733 | | 5,733 |
| 有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額 | 1,230,256 | 85,381 | 3,695 | 3,928 | 17,887 | 1,341,148 | | 1,341,148 |

(注1) 調整額は以下のとおりです。

- (1) セグメント利益の調整額 17,993千円はセグメント間取引消去です。
- (2) セグメント資産の調整額 2,158,094千円はセグメント間取引消去です。
- (3) セグメント負債の調整額 117,252千円はセグメント間取引消去です。

(注2) セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しています。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 サービスごとの情報

(単位：千円)

| | 鉄道 | バス | 情報サービス | その他 | 合計 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 外部顧客への売上高 | 2,337,178 | 8,073,666 | 2,130,890 | 3,084,728 | 15,626,462 |

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が連結損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しています。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しています。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、連結損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 サービスごとの情報

(単位：千円)

| | 鉄道 | バス | 情報サービス | その他 | 合計 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 外部顧客への売上高 | 2,353,767 | 8,086,381 | 2,183,566 | 3,078,338 | 15,702,052 |

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が連結損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しています。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しています。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、連結損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しています。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しています。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等
該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等
該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等
該当事項はありません。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等
該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引
該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

当社は、親会社等はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報
該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等
該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等
該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等
該当事項はありません。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等
該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引
該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

当社は、親会社等はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額並びに1株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

| 項目 | 前連結会計年度 (平成25年3月31日現在) | 当連結会計年度 (平成26年3月31日現在) |
|---------------|---------------------------|---------------------------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 470円32銭 | 471円17銭 |

| 項目 | 前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日) | 当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日) |
|------------------|--|--|
| (2) 1株当たり当期純利益金額 | 35円36銭 | 44円39銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 当期純利益(千円) | 359,554 | 451,288 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | | |
| 普通株式に係る当期純利益(千円) | 359,554 | 451,288 |
| 期中平均株式数(千株) | 10,169 | 10,165 |

- (1) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
 (2) 「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っております。

この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額が、2.64円減少しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

(単位：千円)

| 会社名 | 銘柄 | 発行年月日 | 当期首残高 | 当期末残高 | 利率 | 担保 | 償還期限 |
|------|--|-----------------|-----------|------------------------|-------|----|-----------------|
| 提出会社 | 第3回無担保社債 (株)商工組合中央金庫保証付 適格機関投資家限定) | 平成20年 10月22日 | 300,000 | | 1.33% | なし | 平成25年 10月22日 |
| " | 第4回無担保社債 (株)常陽銀行保証付及び適格 機関投資家限定) | 平成21年 2月16日 | 100,000 | | 1.31 | " | 平成26年 2月14日 |
| " | 第5回無担保社債 (株)筑波銀行保証付及び適格 機関投資家限定) | 平成21年 8月20日 | 100,000 | 100,000 (100,000) | 1.04 | " | 平成26年 8月20日 |
| " | 第6回無担保社債 (適格機関投資家限定 みずほECO評価付) | 平成24年 10月31日 | 500,000 | 500,000 | 0.849 | " | 平成29年 10月31日 |
| " | 第7回無担保社債 (株)商工組合中央金庫保証付 適格機関投資家限定) | 平成25年 10月22日 | | 300,000 | 0.65 | " | 平成30年 10月22日 |
| " | 第8回無担保社債 (株)常陽銀行保証付及び適格 機関投資家限定) | 平成26年 2月17日 | | 300,000 | 0.67 | " | 平成31年 2月15日 |
| 合計 | | | 1,000,000 | 1,200,000 (100,000) | | | |

1. 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額です。
2. 社債の連結決算日後5年内における返済予定額は次のとおりです。

(単位：千円)

| 1年以内 | 1年超2年以内 | 2年超3年以内 | 3年超4年以内 | 4年超5年以内 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 100,000 | | | 500,000 | 600,000 |

【借入金等明細表】

(単位：千円)

| 区分 | 当期首残高 | 当期末残高 | 平均利率 | 返済期限 | 摘要 |
|----------------------------|------------|------------|--------|--------------------|-------|
| 短期借入金 | 2,777,000 | 2,270,500 | 0.904% | | |
| 1年以内に返済予定の長期借入金 | 3,079,877 | 3,156,617 | 1.508 | | 注1 |
| 1年以内に返済予定のリース債務 | 331,667 | 364,674 | | | 注2 |
| 長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く) | 6,667,652 | 6,636,059 | 1.508 | 平成27年4月 ~39年8月 | 注3 |
| リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く) | 1,300,051 | 1,260,829 | | 平成27年4月 ~33年12月 | 注2・注3 |
| 合計 | 14,156,248 | 13,688,680 | | | |

- (注) 1. 1年以内に返済予定の長期借入金は、連結貸借対照表上、短期借入金に含めて表示しています。
2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載していません。
3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は次のとおりです。

(単位：千円)

| 区分 | 1年超2年以内 | 2年超3年以内 | 3年超4年以内 | 4年超5年以内 |
|-------|-----------|-----------|-----------|---------|
| 長期借入金 | 2,447,849 | 1,777,767 | 1,166,534 | 622,286 |
| リース債務 | 352,460 | 307,550 | 230,117 | 146,798 |

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成25年3月31日) | 当事業年度 (平成26年3月31日) |
|-------------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1 482,065 | 1 1,116,583 |
| 未収運賃 | 577,453 | 712,146 |
| 未収金 | 2 187,607 | 2 239,835 |
| 未収収益 | 18,301 | 14,688 |
| 短期貸付金 | 3 396,441 | 3 301,529 |
| リース投資資産(純額) | 212,795 | 210,043 |
| 分譲土地建物 | 1 748,372 | 1 377,958 |
| 貯蔵品 | 86,511 | 92,073 |
| 前払費用 | 22,755 | 22,664 |
| 繰延税金資産 | 128,483 | 143,482 |
| その他の流動資産 | 62,193 | 36,840 |
| 貸倒引当金 | 34,706 | 48,764 |
| 流動資産合計 | 2,888,276 | 3,219,082 |
| 固定資産 | | |
| 鉄道事業固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 1, 5 17,284,919 | 1, 5 17,483,237 |
| 減価償却累計額 | 11,146,549 | 11,450,279 |
| 有形固定資産(純額) | 6,138,369 | 6,032,958 |
| 無形固定資産 | 96,178 | 74,665 |
| 鉄道事業固定資産合計 | 6,234,547 | 6,107,624 |
| 自動車事業固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 1, 5 8,649,344 | 1, 5 8,348,385 |
| 減価償却累計額 | 5,503,348 | 4,915,281 |
| 有形固定資産(純額) | 3,145,995 | 3,433,103 |
| 無形固定資産 | 56,938 | 46,302 |
| 自動車事業固定資産合計 | 3,202,934 | 3,479,405 |
| 開発事業固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 1, 5 9,004,052 | 1, 5 9,285,034 |
| 減価償却累計額 | 2,226,334 | 2,371,406 |
| 有形固定資産(純額) | 6,777,718 | 6,913,628 |
| 無形固定資産 | 9,694 | 11,051 |
| 開発事業固定資産合計 | 6,787,412 | 6,924,680 |
| 各事業関連固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 1 330,600 | 1 332,672 |
| 減価償却累計額 | 243,538 | 245,062 |
| 有形固定資産(純額) | 87,061 | 87,609 |
| 無形固定資産 | 44,563 | 38,527 |
| 各事業関連固定資産合計 | 131,625 | 126,137 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成25年3月31日) | 当事業年度 (平成26年3月31日) |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|
| 建設仮勘定 | | |
| 鉄道事業 | 850 | 850 |
| 開発事業 | - | 20,714 |
| 建設仮勘定合計 | 850 | 21,564 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 1 617,762 | 1 591,113 |
| 関係会社株式 | 1 2,128,308 | 1 1,954,094 |
| 出資金 | 2,200 | 2,200 |
| 長期貸付金 | 9,157 | 8,200 |
| 従業員に対する長期貸付金 | 14,439 | 16,272 |
| 繰延税金資産 | - | 180,323 |
| その他の投資等 | 86,237 | 92,366 |
| 貸倒引当金 | 8,294 | 7,820 |
| 投資その他の資産合計 | 2,849,811 | 2,836,750 |
| 固定資産合計 | 19,207,181 | 19,496,162 |
| 資産合計 | 22,095,457 | 22,715,244 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 1年内償還予定の社債 | 400,000 | 100,000 |
| 短期借入金 | 1 2,054,000 | 1 1,503,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 1 2,935,673 | 1 3,010,653 |
| リース債務 | 238,354 | 268,940 |
| 未払金 | 788,142 | 909,744 |
| 未払費用 | 362,031 | 372,007 |
| 未払消費税等 | 25,389 | 50,344 |
| 未払法人税等 | 103,942 | 162,393 |
| 預り連絡運賃 | 151,925 | 220,169 |
| 預り金 | 152,462 | 267,054 |
| 前受運賃 | 154,175 | 312,676 |
| 前受金 | 34,444 | 35,011 |
| 前受収益 | 23,938 | 21,713 |
| 賞与引当金 | 256,260 | 252,067 |
| 役員賞与引当金 | 16,500 | 16,180 |
| 従業員預り金 | 392,458 | 386,389 |
| 流動負債合計 | 8,089,698 | 7,888,345 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 600,000 | 1,100,000 |
| 長期借入金 | 1 6,137,312 | 1 6,143,624 |
| リース債務 | 1,029,813 | 1,018,988 |
| 繰延税金負債 | 9,178 | - |
| 退職給付引当金 | 1,507,311 | 1,873,759 |
| 役員退職慰労引当金 | 152,944 | 152,009 |
| 長期預り保証金 | 160,322 | 142,104 |
| その他の固定負債 | 261,753 | 255,634 |
| 固定負債合計 | 9,858,636 | 10,686,119 |
| 負債合計 | 17,948,335 | 18,574,464 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成25年3月31日) | 当事業年度 (平成26年3月31日) |
|--------------|-----------------------|-----------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 510,000 | 510,000 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 36,781 | 36,781 |
| 資本剰余金合計 | 36,781 | 36,781 |
| 利益剰余金 | | |
| 利益準備金 | 127,500 | 127,500 |
| その他利益剰余金 | | |
| 別途積立金 | 850,000 | 850,000 |
| 繰越利益剰余金 | 1,526,870 | 1,644,939 |
| 利益剰余金合計 | 2,504,370 | 2,622,439 |
| 自己株式 | 7,504 | 8,138 |
| 株主資本合計 | 3,043,646 | 3,161,082 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,103,475 | 979,697 |
| 評価・換算差額等合計 | 1,103,475 | 979,697 |
| 純資産合計 | 4,147,122 | 4,140,779 |
| 負債純資産合計 | 22,095,457 | 22,715,244 |

【損益計算書】

| | (単位：千円) | |
|------------------|---|---|
| | 前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日) |
| 鉄道事業営業利益 | | |
| 営業収益 | | |
| 旅客運輸収入 | 2,193,607 | 2,210,528 |
| 運輸雑収 | 147,157 | 146,815 |
| 鉄道事業営業収益合計 | 2,340,765 | 2,357,343 |
| 営業費 | | |
| 運送営業費 | 1,663,398 | 1,706,800 |
| 一般管理費 | 133,715 | 141,809 |
| 諸税 | 108,659 | 103,133 |
| 減価償却費 | 345,853 | 373,810 |
| 鉄道事業営業費合計 | 2,251,626 | 2,325,554 |
| 鉄道事業営業利益 | 89,138 | 31,789 |
| 自動車事業営業利益 | | |
| 営業収益 | | |
| 旅客運輸収入 | 6,124,924 | 6,203,658 |
| 運輸雑収 | 377,137 | 402,525 |
| 自動車事業営業収益合計 | 6,502,061 | 6,606,184 |
| 営業費 | | |
| 運送営業費 | 5,540,827 | 5,557,552 |
| 一般管理費 | 423,614 | 440,537 |
| 諸税 | 73,919 | 65,915 |
| 減価償却費 | 351,504 | 427,452 |
| 自動車事業営業費合計 | 6,389,866 | 6,491,459 |
| 自動車事業営業利益 | 112,195 | 114,725 |
| 開発事業営業利益 | | |
| 営業収益 | | |
| 土地建物分譲収入 | 170,121 | 133,537 |
| 賃貸収入 | 697,764 | 677,123 |
| 開発事業営業収益合計 | 867,885 | 810,660 |
| 営業費 | | |
| 売上原価 | 166,484 | 137,358 |
| 販売費及び一般管理費 | 181,580 | 173,277 |
| 諸税 | 65,269 | 64,470 |
| 減価償却費 | 167,730 | 159,870 |
| 開発事業営業費合計 | 581,065 | 534,976 |
| 開発事業営業利益 | 286,820 | 275,684 |
| 全事業営業利益 | 488,153 | 422,198 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日) |
|--------------|---|---|
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 3,814 | 2,810 |
| 受取配当金 | ¹ 52,796 | ¹ 54,004 |
| 補助金収入 | 19,761 | - |
| 工事負担金受入額 | 10,300 | - |
| 受取事務手数料 | 4,971 | 9,638 |
| 雑収入 | 19,880 | 16,477 |
| 営業外収益合計 | 111,523 | 82,930 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 198,291 | 167,765 |
| 社債発行費 | 8,789 | 17,704 |
| 貸倒引当金繰入額 | 9,574 | 909 |
| 固定資産圧縮損 | 25,272 | - |
| 固定資産売却損 | 10,292 | 10,551 |
| 雑支出 | 19,519 | 7,196 |
| 営業外費用合計 | 271,740 | 204,126 |
| 経常利益 | 327,937 | 301,002 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | ² 7,110 | ² 35,216 |
| 補助金収入 | 123,968 | 129,991 |
| 受取補償金 | - | 38,128 |
| 受取損害賠償金 | 6,241 | - |
| 特別利益合計 | 137,321 | 203,335 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産圧縮損 | ³ 128,235 | ³ 131,618 |
| 減損損失 | 26,407 | - |
| 固定資産売却損 | ⁴ 15,363 | - |
| 固定資産除却損 | 6,996 | 40,011 |
| 解体撤去費用 | - | 28,000 |
| 貸倒引当金繰入額 | - | 13,178 |
| 特別損失合計 | 177,001 | 212,808 |
| 税引前当期純利益 | 288,256 | 291,529 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 214,367 | 259,352 |
| 法人税等調整額 | 78,041 | 136,732 |
| 法人税等合計 | 136,325 | 122,620 |
| 当期純利益 | 151,930 | 168,909 |

【営業費明細表】

| 区分 | 注記 番号 | 前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日) | | 当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日) | |
|-------------------|----------|---|-----------|---|-----------|
| | | 金額(千円) | | 金額(千円) | |
| 鉄道事業営業費 | 1 | | | | |
| 1. 運送営業費 | | | | | |
| 人件費 | | 1,192,926 | | 1,215,837 | |
| 経費 | | 470,472 | | 490,963 | |
| 計 | | | 1,663,398 | | 1,706,800 |
| 2. 一般管理費 | | | | | |
| 人件費 | | 110,935 | | 117,217 | |
| 経費 | | 22,780 | | 24,591 | |
| 計 | | | 133,715 | | 141,809 |
| 3. 諸税 | | | 108,659 | | 103,133 |
| 4. 減価償却費 | | 345,853 | | 373,810 | |
| 鉄道事業営業費合計 | | | 2,251,626 | | 2,325,554 |
| 自動車事業営業費 | 2 | | | | |
| 1. 運送営業費 | | | | | |
| 人件費 | | 3,478,815 | | 3,459,329 | |
| 経費 | | 2,062,012 | | 2,098,222 | |
| 計 | | | 5,540,827 | | 5,557,552 |
| 2. 一般管理費 | | | | | |
| 人件費 | | 351,446 | | 364,143 | |
| 経費 | | 72,168 | | 76,394 | |
| 計 | | | 423,614 | | 440,537 |
| 3. 諸税 | | | 73,919 | | 65,915 |
| 4. 減価償却費 | | 351,504 | | 427,452 | |
| 自動車事業営業費合計 | | | 6,389,866 | | 6,491,459 |
| 開発事業営業費 | 3 | | | | |
| 1. 売上原価 | | | 166,484 | | 137,358 |
| 2. 販売費及び 一般管理費 | | | | | |
| 人件費 | | 103,978 | | 98,864 | |
| 経費 | | 77,602 | | 74,413 | |
| 計 | | | 181,580 | | 173,277 |
| 3. 諸税 | | | 65,269 | | 64,470 |
| 4. 減価償却費 | | 167,730 | | 159,870 | |
| 開発事業営業費合計 | | | 581,065 | | 534,976 |
| 全事業営業費合計 | | | 9,222,558 | | 9,351,989 |

事業別営業費合計の100分の5を超える主な費用並びに営業費（全事業）に含まれている引当金繰入額は、次のとおりです。

| | （前事業年度） | | （当事業年度） | |
|-------------------------|--------------|-----------|--------------|-----------|
| 注 | | 千円 | | 千円 |
| 1．鉄道事業営業費 | 運送営業費 | | 運送営業費 | |
| | 給与・賞与 | 901,535 | 給与・賞与 | 904,677 |
| | 法定福利費 | 137,567 | 与 | 143,139 |
| | 修繕費 | 148,237 | 法定福利費 | |
| | 動力費 | 172,792 | 修繕費 | 138,961 |
| | | | 動力費 | 190,372 |
| 2．自動車事業営業費 | 運送営業費 | | 運送営業費 | |
| | 給与・賞与 | 2,798,687 | 給与・賞与 | 2,762,933 |
| | 法定福利費 | 402,169 | 法定福利費 | 413,205 |
| | 動力費 | 745,107 | 動力費 | 801,597 |
| 3．開発事業営業費 | 販売費及び一般管理費 | | 販売費及び一般管理費 | |
| | 給与・賞与 | 75,867 | 給与・賞与 | 71,739 |
| | 賃借料 | 28,149 | 賃借料 | 25,921 |
| 4．営業費（全事業）に含まれている引当金繰入額 | 賞与引当金繰入額 | 256,260 | 賞与引当金繰入額 | 252,067 |
| | 退職給付引当金繰入額 | 515,541 | 退職給付引当金繰入額 | 539,024 |
| | （退職給付費用） | | （退職給付費用） | |
| | 役員退職慰労引当金繰入額 | 32,933 | 役員退職慰労引当金繰入額 | 33,665 |
| | 役員賞与引当金繰入額 | 16,500 | 役員賞与引当金繰入額 | 16,180 |

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | | |
|-------------------------|---------|--------|---------|---------|---------|-----------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | | 別途積立金 | 繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計 |
| 当期首残高 | 510,000 | 36,781 | 36,781 | 127,500 | 850,000 | 1,425,792 | 2,403,292 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | 50,852 | 50,852 |
| 当期純利益 | | | | | | 151,930 | 151,930 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | | | | | | 101,078 | 101,078 |
| 当期末残高 | 510,000 | 36,781 | 36,781 | 127,500 | 850,000 | 1,526,870 | 2,504,370 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | | 純資産合計 |
|-------------------------|-------|-----------|------------------|---------|----------------|-----------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券 評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 当期首残高 | 6,927 | 2,943,145 | 663,169 | 1,526 | 661,642 | 3,604,788 |
| 当期変動額 | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | 50,852 | | | | 50,852 |
| 当期純利益 | | 151,930 | | | | 151,930 |
| 自己株式の取得 | 577 | 577 | | | | 577 |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | | | 440,306 | 1,526 | 441,833 | 441,833 |
| 当期変動額合計 | 577 | 100,501 | 440,306 | 1,526 | 441,833 | 542,334 |
| 当期末残高 | 7,504 | 3,043,646 | 1,103,475 | | 1,103,475 | 4,147,122 |

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | | |
|-------------------------|---------|--------|---------|---------|---------|-----------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | | 別途積立金 | 繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計 |
| 当期首残高 | 510,000 | 36,781 | 36,781 | 127,500 | 850,000 | 1,526,870 | 2,504,370 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | 50,840 | 50,840 |
| 当期純利益 | | | | | | 168,909 | 168,909 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | - | - | - | 118,069 | 118,069 |
| 当期末残高 | 510,000 | 36,781 | 36,781 | 127,500 | 850,000 | 1,644,939 | 2,622,439 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|-------------------------|-------|-----------|------------------|----------------|-----------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券 評価差額金 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 当期首残高 | 7,504 | 3,043,646 | 1,103,475 | 1,103,475 | 4,147,122 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | 50,840 | | | 50,840 |
| 当期純利益 | | 168,909 | | | 168,909 |
| 自己株式の取得 | 634 | 634 | | | 634 |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | | | 123,778 | 123,778 | 123,778 |
| 当期変動額合計 | 634 | 117,435 | 123,778 | 123,778 | 6,343 |
| 当期末残高 | 8,138 | 3,161,082 | 979,697 | 979,697 | 4,140,779 |

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 分譲地土地建物 …… 個別法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 貯蔵品 …… 先入先出法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法)

3. デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

鉄道事業の取替資産については取替法、車両については定率法、それ以外の資産については定額法を採用しています。鉄道事業以外の資産については定率法(ただし、建物については定額法)を採用しています。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物及び構築物 5～60年

機械装置及び運搬具 5～17年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しています。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいています。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

5. 繰延資産の処理方法

社債発行費

支出時に全額費用として処理しています。

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、過去の支給実績を勘案し、当事業年度の負担すべき支給見込額を計上しています。

(3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、当事業年度の負担すべき支給見込額を計上しています。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しています。

退職給付見込の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。

数理計算上の差異及び会計基準変更時差異の費用処理方法

会計基準変更時差異は、15年による定額法により費用処理しています。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しています。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しています。

7. 収益及び費用の計上基準

(1) 工事負担金等の処理方法

鉄道事業及び自動車事業における施設、設備等の新設又は更新にあたり、地方公共団体(又は国土交通省)等により工事費の一部として工事負担金等を受け入れています。これらの工事負担金等は、工事完成時に当該工事負担金相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しています。ただし、施設、設備等が新設のものであり、かつ、当社の収益獲得に直接寄与すると認められる場合、30,000千円以上の工事負担金相当額は直接減額せず固定資産に計上することとしています。

工事負担金相当額を直接減額する場合、損益計算書においては、工事負担金等受入額を特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減額した額を固定資産圧縮損として特別損失に計上しています。

(2) 借入金利息の原価算入

分譲土地の取得に係る借入金利息を一定の計算基準により原価に算入することとしています。

なお、当事業年度において対象工事がなないため取得原価に算入した額はありません。

(3) ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料取得時に売上高と売上原価を計上する方法によっています。

8. 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっています。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっています。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

| | |
|---------|---------|
| (ヘッジ手段) | (ヘッジ対象) |
| 金利スワップ | 借入金の利息 |

(3) ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っています。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジ有効性を評価しています。ただし、特例処理によっている金利スワップについては、金利の変動に伴うキャッシュ・フローの変動を完全に相殺するものと想定されるため、有効性の評価を省略しています。

9. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び会計基準変更時差異の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。ただし、資産に係る控除対象外消費税は発生事業年度の期間費用としています。

(表示方法の変更)

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産

(イ) 財団

| | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) |
|-----------------|-------------------------|-------------------------|
| 鉄道事業固定資産(鉄道財団) | 5,706,940千円 | 5,600,166千円 |
| 自動車事業固定資産(道交財団) | 1,099,106 | 1,192,413 |
| 計 | 6,806,046千円 | 6,792,579千円 |

上記資産は下記借入金の担保に供しています。

| | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) |
|----------------|-------------------------|-------------------------|
| (1年内返済予定額含む) | | |
| 長期借入金(財団抵当借入金) | 4,216,460千円 | 3,959,830千円 |

(ロ) その他

| | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) |
|-----------|-------------------------|-------------------------|
| 開発事業固定資産 | 3,180,487千円 | 3,384,006千円 |
| 各事業関連固定資産 | 73,209 | 67,045 |
| 現金及び預金 | 40,000 | 40,000 |
| 分譲土地建物 | 299,918 | 46,285 |
| 投資有価証券 | 79,200 | 75,400 |
| 関係会社株式 | 551,650 | 492,250 |
| 計 | 4,224,464千円 | 4,104,986千円 |

上記資産を下記の債務の担保に供しています。

| | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) |
|--------------|-------------------------|-------------------------|
| (1年内返済予定額含む) | | |
| 長期借入金 | 3,719,699千円 | 3,920,118千円 |
| 短期借入金 | 1,767,270 | 1,220,638 |
| 計 | 5,486,969千円 | 5,140,757千円 |

2 未収金

(前事業年度)

未収金のうち売上債権は14,225千円です。

(当事業年度)

未収金のうち売上債権は 9,760千円です。

3 関係会社に対する債権

| | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) |
|-------|-------------------------|-------------------------|
| 短期貸付金 | 393,000千円 | 297,000千円 |

4 偶発債務

(イ) 当社は、次のとおり関係会社等の金融機関からの借入金に対して保証を行っています。

| | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) |
|-------------|-------------------------|-------------------------|
| 関鉄筑波商事(株) | 399,200千円 | 349,800千円 |
| 関鉄水戸タクシー(株) | 185,000 | 185,000 |
| (株)関鉄クリエイト | 100,000 | 20,000 |
| 関東情報サービス(株) | 129,352 | |
| 関鉄ハイヤー(株) | 53,000 | 73,000 |
| 関鉄観光バス(株) | 35,000 | 35,000 |
| 計 | 901,552千円 | 662,800千円 |

(ロ) リース債務に対する保証

| | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) |
|-------------|-------------------------|-------------------------|
| 関鉄観光バス(株) | 189,059千円 | 128,625千円 |
| 関鉄県南タクシー(株) | 22,148 | 16,667 |
| 関鉄土浦タクシー(株) | 16,572 | 11,997 |
| 関鉄ハイヤー(株) | 5,718 | 3,499 |
| 関鉄水戸タクシー(株) | 5,261 | 2,945 |
| 計 | 238,759千円 | 163,736千円 |

5 有形固定資産の取得原価から控除した工事負担金等の受入による圧縮累計額は次のとおりです。

| | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) |
|-------|-------------------------|-------------------------|
| 鉄道事業 | 6,507,830千円 | 7,315,134千円 |
| 自動車事業 | 286,081 | 315,071 |
| 開発事業 | 45,677 | 45,677 |
| 計 | 6,839,588千円 | 7,675,883千円 |

(追加情報)

当事業年度において、保有目的の変更に伴い、たな卸資産253,633千円を開発事業固定資産に振替えております。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものは次のとおりです。

| | 前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|--------------|--|--|
| 関係会社からの受取配当金 | 36,743千円 | 35,943千円 |

2 固定資産売却益

固定資産売却益は、次のとおりです。

| | 前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|----|--|--|
| 土地 | 7,110千円 | 35,216千円 |

3 固定資産圧縮損

固定資産圧縮損は、次のとおりです。

| | 前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|-----------|--|--|
| 建物及び構築物 | 25,605千円 | 74,231千円 |
| 機械装置及び運搬具 | 98,363 | 55,760 |
| 土地 | 4,266 | 1,627 |
| 計 | 128,235千円 | 131,618千円 |

4 固定資産売却損

固定資産売却損は、次のとおりです。

| | 前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|----|--|--|
| 土地 | 15,363千円 | 千円 |

(有価証券関係)

前事業年度(平成25年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式510,370千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

当事業年度(平成26年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式510,370千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 繰延税金資産 | | |
| 退職給付引当金 | 539,092千円 | 662,935千円 |
| 賞与引当金 | 96,738 | 89,181 |
| 役員退職慰労引当金 | 55,890 | 53,780 |
| 減損損失 | 41,875 | 41,875 |
| その他 | 80,092 | 108,040 |
| 繰延税金資産小計 | 813,690千円 | 955,814千円 |
| 評価性引当額 | 90,223 | 95,615 |
| 繰延税金資産合計 | 723,467千円 | 860,199千円 |
| 繰延税金負債 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 604,162 | 536,392 |
| 繰延税金負債合計 | 604,162千円 | 536,392千円 |
| 繰延税金資産の純額 | 119,304千円 | 323,806千円 |

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との、差異の原因となった主な項目別の内訳

| | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) |
|-----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 法定実効税率 | 37.8% | 37.8% |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 1.3 | 1.2 |
| 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | 5.5 | 5.6 |
| 役員賞与引当金永久に損金に算入されない項目 | 2.2 | 2.1 |
| 評価性引当額の増減 | 5.3 | 4.7 |
| 住民税均等割 | 1.4 | 1.4 |
| 税率変更による期末繰延税金資産の減額修正 | 4.5 | 5.4 |
| 収用等の特別控除 | | 6.5 |
| その他 | 0.3 | 1.6 |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 47.3% | 42.1% |

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課せられないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の37.75%から35.38%となります。その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が15,790千円減少し、当期に計上された法人税等調整額が15,790千円増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

流動資産に計上した有価証券
 該当事項はありません。

投資有価証券
 その他有価証券

(単位：千円)

| | 銘柄 | 株式数(株) | 貸借対照表計上額 |
|----|---------------------|-----------|----------|
| 株式 | 新京成電鉄(株) | 666,800 | 251,383 |
| | (株)常陽銀行 | 452,215 | 232,890 |
| | (株)水戸京成百貨店 | 760 | 38,000 |
| | 首都圏新都市鉄道(株) | 600 | 30,000 |
| | (株)商工組合中央金庫 | 161,000 | 16,100 |
| | 日本マクドナルドホールディングス(株) | 3,764 | 10,452 |
| | 茨城放送(株) | 9,600 | 4,800 |
| | (株)茨城県自動車会館 | 6,272 | 3,136 |
| | 筑波観光鉄道(株) | 30,000 | 3,000 |
| | 全宅住宅ローン(株) | 10 | 1,000 |
| | その他(2銘柄) | 50,350 | 350 |
| | 計 | 1,381,371 | 591,113 |

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

| 資産の種類 | 当期首残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 | 当期末減価償却累計額又は償却累計額 | 当期償却額 | 差引当期末残高 |
|--------|------------|-----------|------------------------|------------|-------------------|---------|------------|
| 有形固定資産 | | | | | | | |
| 土地 | 7,234,900 | 288,276 | 7,076 (1,627) | 7,516,100 | | | 7,516,100 |
| 建物 | 7,879,679 | 269,973 | 108,047 (878) | 8,041,605 | 4,404,216 | 219,621 | 3,637,388 |
| 構築物 | 8,225,838 | 262,398 | 112,741 (78,689) | 8,375,495 | 5,304,236 | 108,817 | 3,071,259 |
| 車両 | 8,926,993 | 208,592 | 964,127 (50,157) | 8,171,457 | 7,404,291 | 242,963 | 767,166 |
| 機械装置 | 499,065 | 8,233 | 15,838 () | 491,459 | 414,550 | 36,914 | 76,908 |
| 工具器具備品 | 786,516 | 122,501 | 22,379 (266) | 886,637 | 708,535 | 64,630 | 178,101 |
| リース | 1,715,924 | 257,308 | 6,658 | 1,966,574 | 746,198 | 228,945 | 1,220,376 |
| 建設仮勘定 | 850 | 20,714 | | 21,564 | | | 21,564 |
| 計 | 35,269,766 | 1,437,997 | 1,236,868 (131,618) | 35,470,894 | 18,982,029 | 901,893 | 16,488,864 |
| 無形固定資産 | | | | | | | |
| ソフトウェア | | | | 232,074 | 110,499 | 42,664 | 121,575 |
| リース | | | | 24,333 | 16,281 | 8,567 | 8,051 |
| その他 | | | | 60,549 | 19,629 | 8,008 | 40,919 |
| 計 | | | | 316,957 | 146,410 | 59,241 | 170,546 |

(注) 1. 当期増加減少の主なものは次のとおりです。

| (増加) | | (減少) | |
|-------|----------------------|------|---------------------|
| 土地 | 開発事業用地 253,633 千円 | 建物 | 旧潮来営業所事務所 31,571 千円 |
| 建物 | 潮来営業所事務所等 228,696 千円 | 構築物 | 旧潮来照明等 2,532 千円 |
| 構築物 | 潮来営業所外溝他 114,639 千円 | | 木枕木交換 1,606 千円 |
| | P C 枕木工事 28,378 千円 | 車両 | 乗合19両・貸切24両 |
| 車両 | 乗合バス13両 88,357 千円 | | 売却 12,266 千円 |
| | 内燃客車更新4両 31,322 千円 | | |
| リース有形 | 乗合5両・高速4両 222,131 千円 | | |

2. 無形固定資産の金額が、資産の総額の百分の一以下であるため「当期首残高」「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略します。

3. 当期減少額のうち()内は内書きで、取得価額から控除している圧縮記帳額です。

【引当金明細表】

(単位：千円)

| 区分 | 当期首残高 | 当期増加額 | 当期減少額 (目的使用) | 当期減少額 (その他) | 当期末残高 |
|-----------|---------|---------|-----------------|----------------|---------|
| 貸倒引当金 | 43,000 | 14,087 | | 503 | 56,585 |
| 賞与引当金 | 256,260 | 252,067 | 256,260 | | 252,067 |
| 役員賞与引当金 | 16,500 | 16,180 | 16,500 | | 16,180 |
| 役員退職慰労引当金 | 152,944 | 33,665 | 34,600 | | 152,009 |

(注) 貸倒引当金の当期減少額その他は、洗い替えによる戻入額及び回収によるものです。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

| | |
|------------|--|
| 事業年度 | 4月1日から3月31日まで |
| 定時株主総会 | 決算期の翌日より3ヶ月以内 |
| 基準日 | 3月31日 |
| 株券の種類 | 1株券 5株券 10株券 50株券 100株券 500株券 1,000株券 10,000株券 1,000株未満券 |
| 剰余金の配当の基準日 | 9月30日 3月31日 |
| 1単元の株式数 | 1,000株 |
| 株式の名義書換 | |
| 取扱場所 | 茨城県土浦市真鍋一丁目10番8号 関東鉄道株式会社 総務部総務課 |
| 株主名簿管理人 | なし |
| 取次所 | なし |
| 名義書換手数料 | 無料 |
| 新券交付手数料 | 1枚につき50円に印紙税相当額を加算した額 ただし、株券併合・満欄による再交付の場合は無料 |
| 単元未満株式の買取 | |
| 取扱場所 | 茨城県土浦市真鍋一丁目10番8号 関東鉄道株式会社 総務部総務課 |
| 株主名簿管理人 | なし |
| 取次所 | なし |
| 買取手数料 | なし |
| 公告掲載方法 | 茨城新聞 |
| 株主に対する特典 | 以下の優待乗車証を6月1日に1年間有効分を発行 6,000株以上 鉄道竜ヶ崎線 7,000株以上 次のいずれか一つを選択できる。 鉄道常総線 自動車1路線(30キロ以内又は運賃1,150円以内) 自動車回数券(自動車全線120片綴) 12,000株以上 鉄道全線又は自動車全線 14,000株以上 鉄道・自動車全線 |

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しています。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第142期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)平成25年6月25日関東財務局長に提出。

(2) 半期報告書

事業年度 第143期中(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)平成25年12月24日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成26年6月25日

関東鉄道株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

| | | |
|--------------------|-------|---------|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 堀 切 進 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 伊 藤 孝 明 |

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている関東鉄道株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、関東鉄道株式会社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成26年 6月25日

関東鉄道株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

| | | |
|--------------------|-------|---------|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 堀 切 進 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 伊 藤 孝 明 |

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている関東鉄道株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第143期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、関東鉄道株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。